



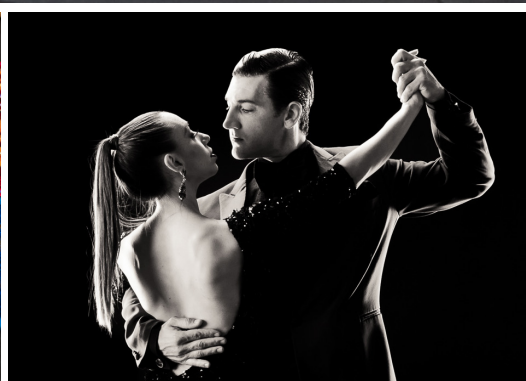
ARGENTINA

BUENOS AIRES

2023

JETRO ビジュアルで見る世界の都市と消費市場

ブエノスアイレススタイル



JETRO

Bienvenidos a

BUENOS
AIRES



はじめに

ブエノスアイレス市は、アルゼンチンの政治、経済、社会の中心にある街だ。アルゼンチンの玄関口であるブエノスアイレス港は、国家発展の鍵として、富だけでなくたくさんの人々や思想をも受け入れ、また送り出してきた。

ブエノスアイレス市は、中南米諸国の中でも特にヨーロッパ化が進んだ街であり、街を歩けばヨーロッパの一都市にいると錯覚させられる。今も市内に残る「カフェ・ノタブレ」と呼ばれる老舗カフェや歴史的建築物の数々は、欧州からの移民が作り上げた街をそのまま今日に伝えている。

ブエノスアイレス市にはアルゼンチンの全人口の6.8%が生活するが、同市を取り囲むように隣接するブエノスアイレス州の近郊都市を含めた「大ブエノスアイレス圏」の人口は、全人口の30.4%にも達する。多くの人々が全国からブエノスアイレス市とその近郊に集まり、学び、働きながら生活しているのである。

本誌は、ブエノスアイレス市の「今」を切り取り、同市を知るために役立つ情報の掲載を心掛けた。また、2020年3月に発生した新型コロナウイルス感染症の蔓延によるブエノスアイレス市での生活やビジネスの変化はもちろん、本誌2016年11月版と比べた変化がわかるよう心掛けた。加えて、当地で活躍する人々の生の声をインタビュー形式で掲載した。

近年のアルゼンチンの経済情勢は厳しいが、本誌が、読者諸氏がブエノスアイレス市に関心を持つきっかけとなることを期待している。

2023年3月28日

ジエトロ・ブエノスアイレス事務所





アルゼンチンの基本情報	5
ブエノスアイレス市の基本情報	6
人口と在留邦人数	7
経済情勢	8
インタビュー：「アルゼンチンにおけるビジネスの可能性」 富田実さん	10
ブエノスアイレス市の概要	12
交通事情	14
消費傾向	17
インタビュー：「アルゼンチンの日本食品」 セバスティアン・マンヘさん	18
エリア別商業施設情報	20
小売業者の店舗形態	22
輸入食品市場	24
インターネット通販市場	25
インタビュー：「アルゼンチンの日本文化」 三井デリアさん	26
日本文化（Jポップ）	28
ポルテーニョのファッションに関する考え方	29
ファッションイベント	29
ファッションの情報源（雑誌）	29
インタビュー：「アルゼンチンのファッション」 池田パウラさん	30
美容事情	32
ブエノスアイレスの食文化	33
最近のトレンド	36
日本食レストラン紹介	37
ブエノスアイレス市の日本産食材サポーター店	38
インタビュー：「アルゼンチンでの飲食店経営」 大野剛浩さん	40
ファストフード店	42
カフェ文化	43
ポルテーニョの外食事情	44
住宅事情	45
お宅訪問	47
ポルテーニョの長期休暇と週末	48
ポルテーニョのとある週末の過ごし方	50
就労事情	52
結婚事情	54
教育事情	55
インタビュー：「日本人子女の教育」 菅原義之さん	56
医療事情	58
インタビュー：「アルゼンチンの医療」 鈴木一郎さん	60
高齢者福祉事情	62
富裕層向けサービス	63

概要



Información
general

● アルゼンチンの基本情報

アルゼンチンはアメリカ大陸の南部に位置し、ブラジル、ウルグアイ、チリ、パラグアイ、ボリビアと国境を接している。国土が南北に長いので、気候も亜熱帯、温帯、乾燥帯、寒冷帯の4つに分かれる。

首都：ブエノスアイレス市

政治体制：立憲共和制

議会制度：二院制（上院 72 議席（任期6年）、下院 257 議席（任期4年））

上院議長は副大統領が兼任。

主要政党：正義党、共和国提案、自由進歩、急進市民同盟、市民連合、社会党、共産党

元首：アルベルト・フェルナンデス大統領（任期 4 年、2023 年 12 月まで）

出所：日本外務省

面積

2,780,400 km²

（日本の約 7.5 倍）

出所：国家統計センサス局（INDEC、2010 年）

アルゼンチン
の面積



日本の面積



言語

公用語はスペイン語。

英語は空港、高級ホテル、レストランなどを除いてあまり通じない。

通貨

アルゼンチン・ペソ

（本稿では1ペソ=0.005ドルで計算）

宗教

国教はキリスト教（カトリック）だが、信仰の自由は認められている。カトリックの他、プロテスタント、ユダヤ教、イスラム教、ロシア正教などの信者もいる。国家科学技術審議会（CONICET）の2019年の調査によると、回答者の62.9%がカトリックを信仰。

● ブエノスアイレス市の基本情報

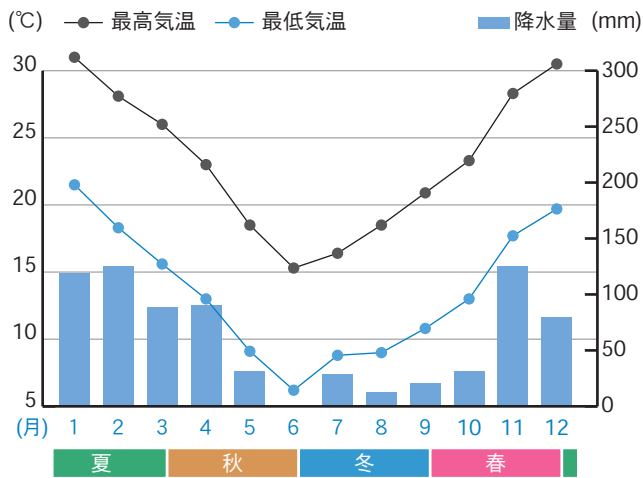
ブエノスアイレス市はラプラタ川の河口に位置する港町である。いずれの州にも属さない「特別自治市」で、アルゼンチンの政治、経済、文化の中心としての役割を果たす。国土のわずか1%に満たない面積に、全人口の約7%が生活しており、人口密度が国内で最も高い行政区である。また、ブエノスアイレス市とブエノスアイレス州内の24行政区を合わせて大ブエノスアイレス圏と呼び、アルゼンチンの総人口の30%に相当する1,398万5,794人が生活している。

市長：オラシオ・ロドリゲス・ラレッタ
(任期4年、2023年12月まで)

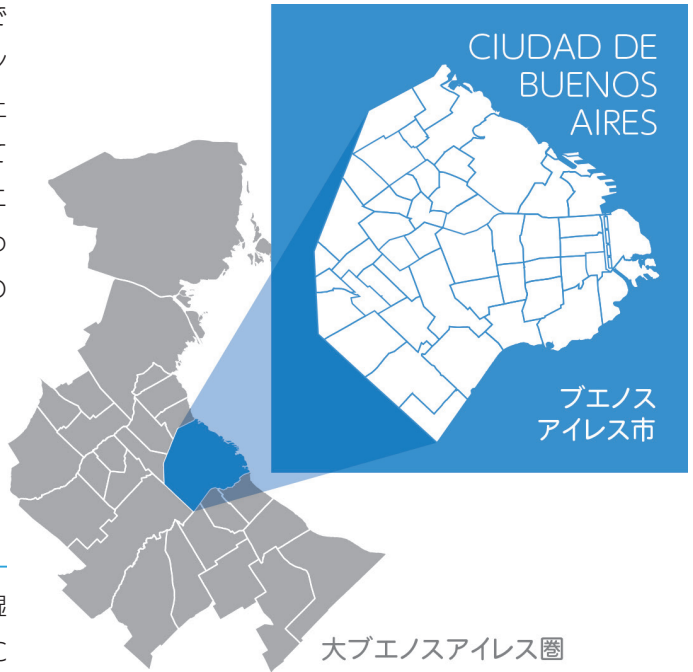
！ ブエノスアイレス市の気候

南半球に位置するため、日本とは気候が真逆だが、温暖湿潤気候ではっきりとした四季がある。年間の平均気温は18℃で、最も寒いのは6月。夏は湿度が高く蒸し暑く、春と秋は雨の日が多い。

ブエノスアイレス市の平均気温と降水量



出所：ブエノスアイレス市（2022年）



！ 面積

ブエノスアイレス市の面積

200 km²

(東京23区の約3分の1)

出所：INDEC（2010年）



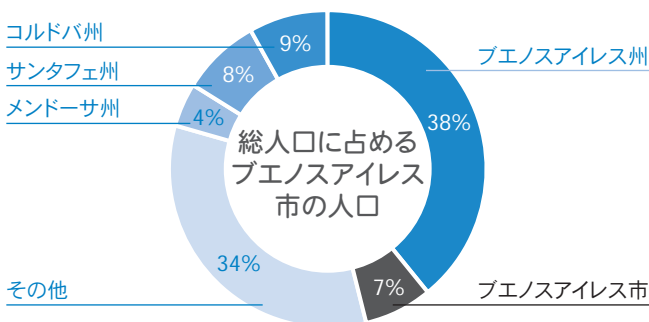
● 人口と在留邦人数

！アルゼンチンの人口

男女とも増加傾向にある、男女比はほぼ同じだが、女性がやや多いことが特徴として挙げられる。また、合計特殊出生率が低下していることから、将来は少子高齢化が進むことが予想される。

46,044,703 人

出所：INDEC（2022年人口センサス暫定結果）



出所：INDEC（2020年）

人口密度：16.6人/km²

出所：INDEC（2022年推定）

合計特殊出生率：2.18人

出所：INDEC（2020年）

平均年齢：29.8歳（男性：28.7歳、女性：30.8歳）

出所：INDEC（2010年）

識字率：98.0%（男性：98.0%、女性：98.1%）

出所：INDEC（2010年）

！アルゼンチンの在留邦人数

アルゼンチン進出日系企業数と在留邦人数：

70社、11,189人

出所：日本外務省（2022年）

在アルゼンチン日本商工会議所に登録している日本企業：

65社（製造業：19社、非製造業：46社）

出所：在アルゼンチン日本商工会議所（2023年3月）

！ブエノスアイレス市の人口

ブエノスアイレス市の人口は、ブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州に次いで第4位。アルゼンチン全体と同様、男女とも増加傾向にあり、女性の割合がやや多い。出生平均年齢が上昇する一方で、合計特殊出生率が低下していることから、今後は少子高齢化が進むことが予想される。平均年齢も全国値を上回っている。ちなみに、ブエノスアイレス市民はポルテーニョ（港の住民）と呼ばれる。

3,120,612 人

出所：INDEC（2022年人口センサス暫定）

人口密度：15,090.7人/km²

合計特殊出生率：1.88人

出産平均年齢：31.8歳

平均年齢：36.8歳（男性：34.5歳、女性：39.0歳）

識字率：99.6%（男性：99.5%、女性：99.6%）

出所：ブエノスアイレス市財務省（2021年）

！ブエノスアイレス市の在留邦人数

4,325人

出所：日本外務省（2022年）

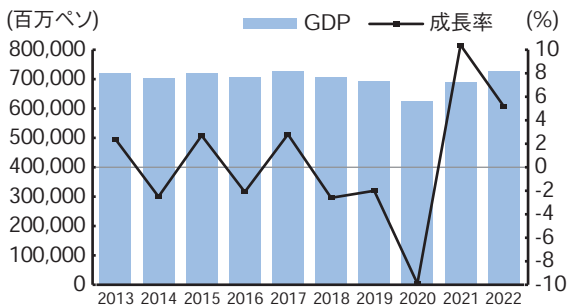


大統領府

● 経済情勢

アルゼンチンの実質国内総生産（GDP）成長率とブエノスアイレス市の実質域内総生産（GRP）成長率は、2010年にV字回復を見せたものの、その後は再び低下傾向にあった。特に2019年から2020年にかけては政権交代による資本取引規制、輸出入規制の強化に加え、新型コロナウイルス蔓延の影響で急落したが、2021年、2022年はコロナの反動により再びV字回復した。2023年末に誕生する新政権には、資本取引規制の緩和、輸出税の減免、輸入制限措置の廃止など、市場重視の経済政策の導入が期待されている。

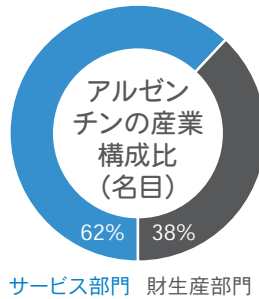
アルゼンチンの実質 GDP（2004年ベース）と成長率



出所：INDEC（2022年第4四半期）

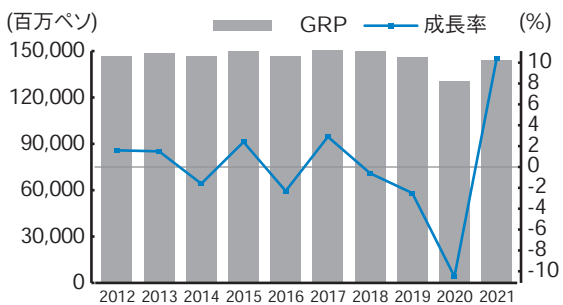
名目 GDP：82兆6,502億ペソ（2022年通年）

実質 GDP 成長率：5.2%（2022年通年、前年比）



出所：INDEC（2021年）

ブエノスアイレス市の実質 GRP（2004年ベース）と成長率



出所：ブエノスアイレス市財務省（2021年）

出所：ブエノスアイレス市財務省（2021年）

名目 GRP：7兆3,116億ペソ

実質 GRP 成長率：10.4%

1人当たりGRP：23,089ドル（2021年の公定レート、1ドル=102.69ペソで計算）

出所：ブエノスアイレス市（2021年）

主な産業：サービス業がGRPに占める割合が83%と非常に高い。中でも不動産業・不動産賃貸業・企業向けサービス業、商業、金融仲介業・その他金融業、運輸・倉庫・通信業の4つの割合が大きく、4業種でGRPの57%を占めている。全国のGDPをみると、サービス業の割合は61.1%に留まるため、ブエノスアイレス市にはサービス業が集中していることがわかる。

！ 失業率

2001年の経済危機直後は約20%の高水準だったが、現在は一桁台まで改善している。とは言え、インフォーマルセクターが雇用の受け皿になっているとされており、課題となっている。

アルゼンチン：6.3%

ブエノスアイレス市：3.9%

出所：INDEC（2022年第4四半期）

！ 貿易動向

アルゼンチンの2022年（暫定値）の貿易収支は、約69億2,300万ドルの黒字だった。アルゼンチン全体、ブエノスアイレス市ともにメルコスール諸国が最大の貿易相手。ただし、輸出品目は、アルゼンチン全体は一次産品が約20%を占めるのに対し、ブエノスアイレス市はほぼ農産加工品と工業製品のみで構成されている。

アルゼンチン

輸出：884億4,600万ドル

輸入：815億2,300万ドル

出所：INDEC（2022年暫定値）

ブエノスアイレス市

輸出：3億1,100万ドル

出所：ブエノスアイレス市財務省（2022年暫定値）

！ アルゼンチンと日本の貿易

日本からの輸入額が日本への輸出額を上回り、日本側の貿易黒字となっている。輸入品目は機械や化学物質などの工業製品が中心となっている一方、輸出品目は、農産品、魚介類、鉱物資源が大半を占める。しかし、輸出入ともに貿易額全体に占める日本の割合は1%前後にとどまっている。

アルゼンチンと日本の貿易額

対日輸出額：7億9,500万ドル

対日輸入額：12億100万ドル

出所：INDEC（2022年暫定値）

物価 (消費者物価指数)

アルゼンチンは慢性的なインフレに苦しんでいるが、2019年12月に現政権が発足して以降も消費者物価指数(CPI)は上昇を続けている。2022年の全国のCPIは前年比で94.8%上昇し、過去32年間で最高値となった。2023年もインフレが収まることはなく、100%を超える可能性が高い。

アルゼンチン : 94.8%

出所: INDEC (2022年通年、前年比)

ブエノスアイレス市 : 93.4%

出所: ブエノスアイレス市財務省(2022年通年、前年比)

外国人を困惑させる為替レート

アルゼンチンには、公式の為替レートである公定レートに加え、複数の為替レートが存在する。最も頻りに耳にするのはブルーレートと呼ばれる非公式の為替レート。2023年3月時点で、公式レート1ドル210ペソに対してブルーレートは1ドル390ペソ。約85%の差がある。市内セントロ地区のフロリダ通りを歩くと、「カンビオ、カンビオ」と声をかけてくる人たちの存在に気づく。彼らの正体は闇両替商。



背景にはアルゼンチン独特の複雑な事情がある。アルゼンチン人は、過去のハイパーインフレの経験から自国通貨を信用せず、ドルやユーロなどの外貨を購入して資産を守っている。しかし、近年は中央銀行の外貨準備高が減少しているため、外貨購入に厳しい規制が設けられている。その結果、外貨を購入できない市民が闇両替を利用するため、闇両替商は現在も増加傾向にある。

具体的な物価

ブエノスアイレス市での価格



品物	ペソ	ドル
コーヒー (1杯)	450.00	2.25
ガソリン (1リットル)	245.00	1.23
フランスパン (1キロ)	520.00	2.60
牛乳 (1リットル)	235.00	1.18
卵 (1ダース)	740.00	3.70
牛ひき肉 (1キロ)	1,400.00	7.00
ジャガイモ (1キロ)	390.00	1.95
玉ねぎ (1キロ)	230.00	1.15
ニンジン (1キロ)	300.00	1.50
トマト (1キロ)	600.00	3.00
アルゼンチン国産米 (1キロ)	507.00	2.54
小麦粉 (1キロ)	140.00	0.70
コココーラ (1.75リットル)	435.00	2.18
缶ビール (473 cc)	405.00	2.03
瓶ビール (1リットル)	398.00	1.99
赤ワイン (750 cc)	1,831.00	9.10
ミネラルウォーター (2リットル)	260.00	1.30
石鹸 (90グラム)	297.00	1.49
シャンプー (200 cm³)	330.00	1.65
歯磨き粉 (90グラム)	648.00	3.24
大学ノート (1冊 84枚)	874.30	4.37
映画館チケット (水曜日は半額)	1,440.00	7.20
スポーツジム月会費	9,730.00	48.65
散髪	3,500.00	17.50

品物	ペソ	ドル
スマートテレビ (サムスン、HD、32インチ)	65,000.00	325.00
洗濯機 (サムスン、7キロ)	207,500.00	1,037.50
スマートフォン (Apple iPhone 13 Pro Max 256GB Graphite)	862,000.00	4,310.00
エアコン (サムスン、冷暖房)	354,000.00	1,770.00
ノートパソコン (MacBook Air 13" M1 Chip 8-core CPU 7-core GPU 256GB)	600,000.00	3,000.00
デジタルカメラ (キャノン、Eos R 5)	1,985,000.00	9,925.00
ゲーム機 (ソニー、PlayStation 5)	443,000.00	2,215.00
電気ポット (フィリップス)	13,000.00	65.00
タブレットパソコン (Apple iPad Air 11" Wi-Fi 256GB (4G))	363,000.00	1,815.00
ロボット掃除機 (サムスン、Powerbot-e Wifi Inverter)	145,000.00	725.00
電子レンジ (サムスン、900W 32Lt)	135,000.00	675.00
調理台 (ワールプール、オープン付き4口コンロ)	219,000.00	1,095.00
冷凍冷蔵庫 (ワールプール、462リットル)	518,000.00	2,590.00

出所: パレルモ地区のハイパーマーケット「ジューボ」、アルマグロ地区の映画館「Hoyts」、パレルモ地区のガソリンスタンド「シェル」、セントロ地区のスポーツジム「Megatlon」、セントロ地区の美容院、セントロ地区の家電量販店「フラベガ」(2023年3月時点)

M I N O R U T O M I T A

アルゼンチンにおける ビジネスの 可能性

ポテンシャルの高い国ですので、債務の返済計画が着実に実行され、様々な規制が撤廃されれば、国の財政状況やビジネス環境は大きく改善されると思いますので将来的にアルゼンチンは投資先としての可能性が十分にあると思います。

赴任当時のアルゼンチンの状況について教えてください。

コロナ禍の2020年10月に赴任しました。成田空港は照明が消え、人もまばら、店舗は殆ど閉まっている衝撃的な光景でした。暗い空港から出発するのが、非常に不安だったのを覚えています。アルゼンチンに着いた時は、ほぼ人通りがありませんでした。ホテルも、フロントでのチェックインはなく、地下駐車場からエレベーターで部屋に通されました。机の上に「カメラで監視中、外出したら即通報」と警告書が置いてありました。社員と会えず、前任者とリモートで引継ぎを行い、取引先ともリモートで接触していました。翌年9月末までこのような状況が続きましたが、現在は週3日出社しています。

アルゼンチンの市場としての可能性は？

赴任前から債務国というマイナスのイメージがありました。ポテンシャルはあると聞いていました。特に食料、シェールガス・オイル、金属資源、新エネルギーは可能性がある分野として注目しています。アルゼンチンの個人資産は、タンス貯金や



海外口座を含めると数千億ドルに達すると言われており、特に中高所得者層の購買力には期待できると思いますので、市場としての可能性は感じています。

アルゼンチンの投資先としての可能性は？

現在のアルゼンチンは資本規制、外貨規制、輸出入規制などがあり、ビジネス環境は厳しいです。ただ、ポテンシャルが高いことに間違いはなく、多くの分野が未開拓です。例えば、リチウムや銅などはアルゼンチンのポテンシャルをまだ発揮できておらず、今後の可能性を秘めていると思います。ロシア・ウクライナ問題や米中関係を背景に、エネルギーや食糧の安全保障といった意識の高まりから、今後アルゼンチンの位置づけや注目度は変わってくると思います。

今後のアルゼンチンの展望について教えてください。

今年は10月に大統領選挙が行われ、アルゼンチンの今後を決める大変重要な年です。アルゼンチンの強みを発揮するための取り組みが実現するよう、新政権の舵取りに期待しています。穀物は



気候変動に左右されてしまいますのでガスや石油を安定的に調達・供給・輸出できるようになれば、ガスを輸入する必要がなくなり、安定して外貨を獲得できるようになると聞いています。ポテンシャルの高い国ですので、債務の返済計画が着実に実行されて、様々な規制が撤廃されれば、国の財政状況やビジネス環境は大きく改善されるものと期待しています。将来的に、アルゼンチンの投資先としての可能性は十分あると思います。

アルゼンチンでの生活は？

アルゼンチンは治安が比較的良く、過ごしやすい気候です。アルゼンチン人には親日家が多いため、敬意を持って接してくれます。家族連れでも安心して生活できます。週末はスポーツで現地の方々と交流したり、市内や郊外で観光を楽しんでいます。また、水道光熱費は日本より安いですが、輸入規制の影響で日本食材の調達には苦労しています。一方、日系移民の農業従事者のおかげで、白菜、長ネギ、柿などが手に入るのは非常にありがたいです。外食もイタリア料理、スペイン料理、アジア料理が揃っておりバラエティーに富んでいます。

アルゼンチンに進出を希望する企業へのアドバイスは？

政治・経済状況が他国と異なり、想定外の対応を迫られるケースがあると聞いています。まずは、投資環境を十分に調査して判断頂ければと思います。その上でアルゼンチンを実際に訪問頂ければ、債務国でありビジネスをするには難しい国、というだけのネガティブな印象も変わるでしょう。来年以降、ポテンシャルが徐々に発揮されていくと期待していますので、是非注目していただきたいと思います。

富田実さん

在亜日本商工会議所会頭代行

プロフィール: 2020年からアルゼンチン三井物産(株)社長。アルゼンチンのほか、スペインとメキシコでの駐在経験がある。

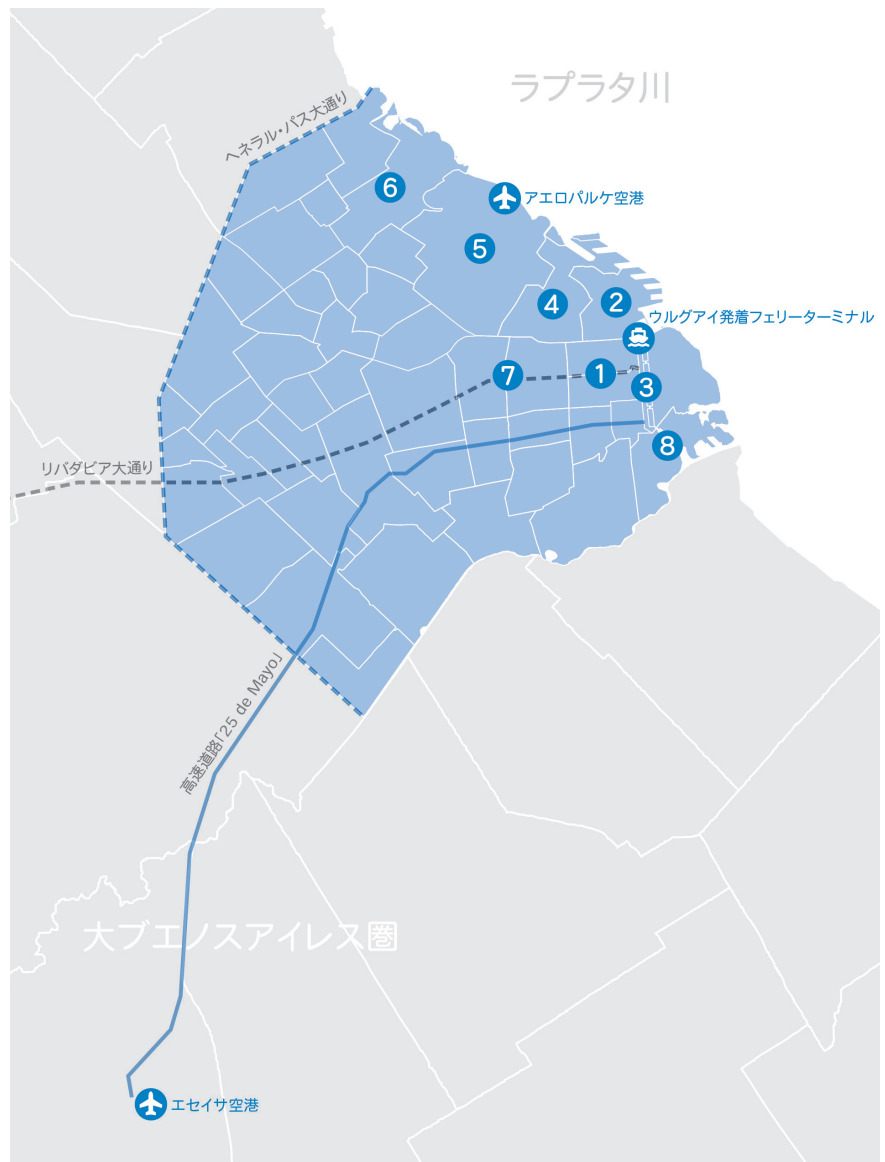
● ブエノスアイレス市の概要

主なエリア紹介

ブエノスアイレス市は、中央を東西に走るリバダビア大通りを境に、南が旧市街、北が新市街に分かれている。また、ブエノスアイレス市を囲むように走る環状道路、ヘネラル・パス大通りが、ブエノスアイレス州との境界線になっている。

市内へのアクセス方法

空路の国際線は主に郊外のエセイサ空港、国内線と一部の国際線は市内のアエロパルケ空港に発着する。エセイサ空港と市内は高速道路で結ばれており、タクシー、レミス（ハイヤー）、バスなどが利用できる。また、市内の港には、ブエノスアイレス市とウルグアイを結ぶフェリーが就航している。



ブエノスアイレスの「15分都市」計画

ブエノスアイレス市政府は、セントロ地区周辺を若者や学生が住める住宅エリアに再開発する計画を実行中だ。セントロ地区は昔から、政府機関や金融機関の他、オフィスビル、ビジネスホテル、飲食店、商業施設などが集中するビジネスの中心地だったが、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウン期に多くのホテルや飲食店、商店が閉店を余儀なくされた。オフィスを緑が多い郊外に移した企業もあり、在宅ワーク、リモートワークの働き方が広がり、もぬけの殻となったビルも多い。この状況を改善するために市政府は、若者たちが自宅から徒歩や自転車、または公共交通機関を使って行ける距離、15分の範囲内に全てのサービスや必要なものが揃うスマートエリアの開発に乗り出した。オフィスビルを住宅ビルに改装する事業者や、この地区で物件を購入または賃貸した者などに対して税金の優遇や融資などが行われている。



① セントロ地区



大統領府や省庁などの政府機関、証券取引所や銀行などの金融機関が集中しており、オフィスビル、外国人観光客向けのホテル、レストラン、商業施設が立ち並び。

② レティーロ地区



オフィスビルや外国人観光客向けのホテルの他、ブエノスアイレス市と郊外、地方都市を結ぶ列車が発着するレティーロ駅、中長距離バスが発着するバスターミナルがある。

③ プエルト・マデーロ地区



近代的な高層オフィスビル、高級マンション、外国人観光客向けのホテルやレストラン街が立ち並び、近年最も開発が進む地区のひとつ。

④ レコレータ地区



市内屈指の高級住宅街で、有名ブランド店、ブティックホテル、博物館や美術館などの文化施設、映画館をはじめとする娯楽施設が数多く存在する。

⑤ パレルモ地区



中上流階級が多く住み、大学のキャンパスが点在し、アパートルショップ、ディスコ、バー、レストランが集まっていることから、若者を中心に人気のエリアとなっている。

⑥ ヘルグララーノ地区



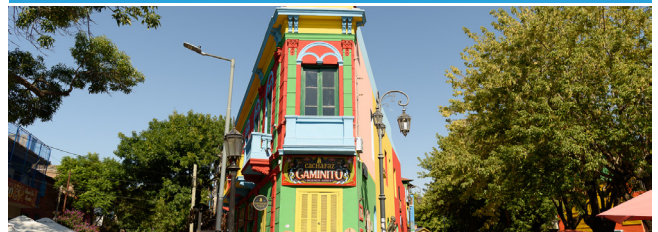
レコレータ地区と並び、市内屈指の高級住宅街。日本人駐在員も多く住んでおり、日本人学校、中華街、各国大使館がある。公園やスポーツ施設が多いのも特徴のひとつ。

⑦ オンセ地区



ブエノスアイレス市と郊外を結ぶ列車が発着するオンセ駅がある。駅周辺には衣類、布生地、電化製品、日用雑貨、アクセサリーなどを扱う商店・露店が数多く存在する。

⑧ ラ・ボカ地区



ブエノスアイレス市の南部にラプラタ川沿いにある湾港地区。タンゴ発祥地ともされ、海外から観光客が多く訪れる。

● 交通事情

ブエノスアイレス市内には、公共交通機関の地下鉄、プレメトロ、市内バス、メトロバスがあり、これらは最もポピュラーな交通手段となっている。また、タクシー、レミース、乗用車、配車サービスの他、近年では交通渋滞を回避するため、オートバイ、自転車、電動キックボードを利用する市民も増加中。ブエノスアイレス市と郊外、地方都市を結ぶ鉄道や中長距離バスもあり、郊外からの通学・通勤者も多い。

有料道路の通行料金の支払い TelePase で

ブエノスアイレス市やアルゼンチン全土の有料道路では、2016年12月に電子料金収受システム「TelePase」（テレパセ）が導入された。TelePaseは日本のETCと同様、有料道路を利用する際に料金所で止まることなく料金の支払いができる。クレジットカードやデビットカード、電子決済サービスのメルカド・パゴを紐づけることができ、「タグ」と呼ばれる機器を乗用車のフロントガラスに取り付けて使用する。機器の導入費用は無料だ。

市政府は、新型コロナウイルスの感染拡大期に、運転手と料金所職員の接触を避けるために Telepase の導入を促進した。この時点で有料道路の利用者の40%は現金払いだった。2022年2月19日以降は市内の有料道路の TelePase 専用レーンを TelePase なしで通過した場合に最大4倍の料金を課金するなど、市政府はその後も Telepase の利用拡大に努めている。



● 地下鉄

A、B、C、D、E、Hの6路線が走っている。運賃は、乗車距離に関わらず58ペソ均一。月の利用者数はプレメトロを合わせると2,000万人にのぼる。ちなみに、E線とH線は拡張工事が計画されている。また、パレルモ地区とコンスティトゥション駅を結ぶF線、レティーロ駅とビジャ・デル・パルケ地区を結ぶG線、E線のディレクトリオ駅とヌーニェス地区を結ぶI線の建設計画もある。



● プレメトロ

ブエノスアイレス市南部を走る路面電車。2路線あるが、運行距離は短い。地下鉄E線から乗り換えが可能。運賃は、乗車距離に関わらず20ペソ均一。



● 市内バス

約180路線が走っており、なかにはブエノスアイレス市と大ブエノスアイレス圏を結ぶ路線もある。各路線には番号が付いていて、車体が色分けされている。運賃は最低39.54ペソだが、乗車距離によって異なる。24時間運行している。



● メトロバス

バス専用レーンを走行する市内バスで、8路線が運行している。交通渋滞の緩和にも一役買っている。バス停では無料WiFiが利用できる。



● 鉄道

市内にはレティーロ、オンセ、コンスティトゥション、フェデリコ・ラクロセの4つの発着駅があり、ブエノスアイレス市と郊外や地方都市を結ぶ列車が運行している。最低運賃は19ペソ。月の利用者は2,668万人。



● 長距離バス

レティーロ地区にあるバスターミナルより、郊外、地方都市、近隣諸国行きの中長距離バスが運行している。



● タクシー

黒と黄色の車体に統一されている。初乗り料金は293ペソで、200メートルごとに29.3ペソが加算される。午後10時から翌朝午前6時までは20%増しの深夜料金が適用される。

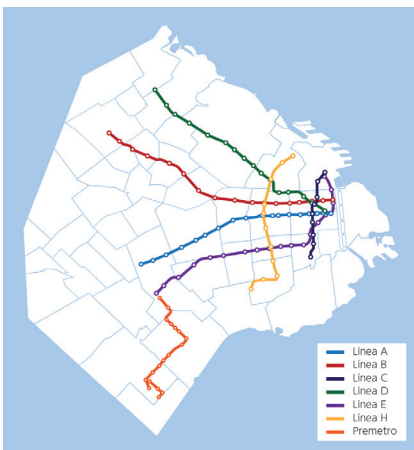


● レミース

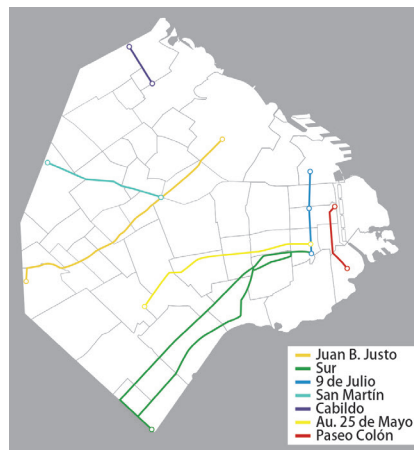
会社や個人が営業するハイヤーで、車体の色や車種は決まっていない。路上で拾うことはできず、事前の予約が必要となる。その際に目的地を伝えるため、料金は定額となる。空港などにはレミースが手配できるカウンターなどもあり、その場で現金またはカード払いができる。エセイサ空港からブエノスアイレス市中心部までの料金は、2023年3月時点で約9,000ペソから1万ペソとなっている。



地下鉄 + プレメトロ路線図



メトロバス路線図



電動キックボードの急速な普及

近年、ブエノスアイレス市内の自転車専用レーンでは、自転車のみならず電動キックボードで移動する人の姿を目にする機会が増えた。2019年には民間企業が電動キックボードの有料レンタルサービスを開始した。約4,000台が市内数カ所に設置され、簡単な登録手続きを行えば利用できたため、多くの市民にとって貴重な交通手段となっていた。ところが、新型コロナウイルス蔓延による外出自粛で2021年に中断。

2023年3月から2年間の実験期間を経て再開される予定。初期段階では、市内各地の駐輪場に約2,000台の電動キックボードが設置される。制限速度は



時速25キロ、ヘルメットの着用が義務づけられ、16歳以上であれば24時間利用が可能になるという。一方、電動キックボードを購入する市民も増加している。主な利用目的は短距離の移動だが、交通渋滞の緩和と環境保護に一役買っている。

●配車サービス

ブエノスアイレス市内では、ウーバーやカビファイなどの配車サービスも利用できる。特にコロナ後はタクシーの台数が大幅に減少し、配車アプリの利用者が増加している。

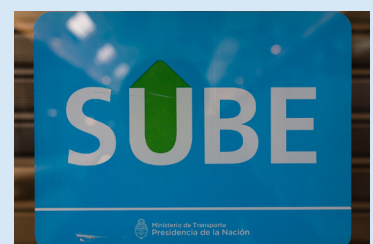
●エコビシと専用レーン

市内315カ所の無人駐輪場で、自転車「エコビシ」の無料レンタルサービスが提供されている。簡単な登録手続きを行えば、一年中24時間、誰でも利用できるシステム。自転車専用レーンもあり、2023年現在、全長287キロに及ぶ。



★SUBEカード

ブエノスアイレス市内の公共交通機関、市バスや地下鉄を利用する際は、SUBEと呼ばれるICカードが必要。キオスクや駅構内の窓口などで購入し、チャージもできる。



自家用車

公共交通機関の運賃値上げにより、自家用車を使用する市民も増えている。2022年にアルゼンチン全体で販売された乗用車の台数（新車登録台数）は約40万台で、ブエノスアイレス市では全体の約20%の8万台が販売された。



2022年で最も販売登録台数が多かった車名ランキング

順位	メーカー	車名	台数
1	フィアット	CRONOS	38,769
2	プジョー	208	25,649
3	トヨタ	HILUX	24,628
4	フォルクスワーゲン	AMAROK	21,249
5	トヨタ	ETIOS	18,141
6	シボレー	CRUZE	15,221
7	トヨタ	YARIS	14,316
8	ルノー	KANGOO	14,155
9	フォード	RANGER	13,189
10	トヨタ	COROLLA CROSS	12,690

出所：アルゼンチン自動車販売代理店協会

オートバイ

渋滞を避けるためにオートバイを利用する市民も。新型コロナウイルス蔓延による外出自粛の後、オートバイでの宅配サービスも急増中。2022年にアルゼンチンで販売されたオートバイの台数（新車登録）は約40万台で、そのうちブエノスアイレス市では2万台弱（全体の4.4%）で、ブエノスアイレス州やその他の州に比べて少ない。



2022年で最も販売登録台数が多かったブランドランキング

順位	ブランド	台数
1	HONDA	89,622
2	MOTOMEL	57,171
3	CORVEN	50,624
4	ZANELLA	44,612
5	GILERA	41,953

出所：アルゼンチン自動車販売代理店協会

自転車

専用レーンの設置・拡大にともない、自転車を利用する市民も増加中。環境にも優しいことから注目を集めている。



新型コロナウイルス感染症の蔓延による生活・ビジネススタイルの変化

2020年3月、アルゼンチン保健省は国内初の新型コロナウイルス感染、国内初の死者を確認したことを発表した。その後、海外からの渡航制限、入国者や帰国者に対する自宅待機の推奨、外国人非居住者の入国禁止、外出禁止などの措置を講じた。セントロ地区はゴースタウンと化し、シャッターを下ろした商店街ではテナント募集の張り紙や看板が目立つようになった。しかし、2022年4月以降は感染者数が大きく減少し、6月にブエノスアイレス市は屋内でのマスク着用義務を廃止。9月にアルゼンチン全土でマスク着用義務が廃止され、入国規制も全て撤廃された。

アルゼンチン保健省によると、2023年2月時点での累計感染者数は約1,000万人、累計死者数は約13万人。中小企業商工会議所（CAME）によると、2020年の倒産・閉店件数はアルゼンチン全土で約9万件に達し、約18万人が職を失った。一方、ブエノスアイレス市商工連盟（FECOBA）によると、同年のブエノスアイレス市内の倒産・閉店件数は1万6千件だった。

コロナ以降、ブエノスアイレス市民の生活やビジネススタイルにも変化がみられる。リモートワークやオンライン授業の推進・普及

により、郊外・地方に移住する市民が増加。外出制限により、eコマースやフードデリバリーサービスが急成長した。公共交通機関の代わりに自転車や電動キックボードを利用する市民が増加した。

一方で、外出禁止措置による運動不足や食習慣の変化により、肥満や心血管疾患、代謝性疾患が増加している。また、精神疾患も増加し、たばこ、アルコール、薬物、テクノロジーへの依存が深刻化している。



消費市場



Mercado de consumo



● 消費傾向

！ 所得水準

ブエノスアイレス市財務省によると、2022年第3四半期のジニ係数は0.425、平均所得は156,000ペソであった。名目所得額は年々大きく伸びているが、高インフレによるものであり、実際は中間層が減り、低所得層が拡大していると言われている。一般的に所得階層は上から、高所得層(10%)、上位中間層(10%)、中間層(20%)、下位中間層(20%)、低所得層(40%)の5つに分けて語られることが多い。

同市財務省発表の統計値と前述の定義を合わせてみると、2022年12月の所得階層区別と世帯月収は右の図のようになる。

2001年末の経済危機以降、雇用創出や補助金の交付などにより経済的不平等には一定の改善が見られていた。しかし、2010年代以降、インフレや雇用情勢の悪化、新型コロナウイルス蔓延の影響などによって再び格差が広がっている。

世帯月収 (ペソ)	所得層区分
425,000 ~ 1,740,000	高所得層 (10%)
300,000 ~ 425,000	上位中間層 (10%)
242,000 ~ 300,000	中間層 (20%)
200,000 ~ 242,000	
156,000 ~ 200,000	下位中間層 (20%)
130,000 ~ 156,000	
102,000 ~ 130,000	低所得層 (40%)
80,000 ~ 102,000	
50,000 ~ 80,000	
3,500 ~ 50,000	

出所：ブエノスアイレス市財務省
(2022年第3四半期)

！ 世帯の消費支出内容

リーマンショックに端を発した2000年代後半の経済不況の中、アルゼンチンは賃上げと各種融資プログラムによって国内消費を促進した結果、中間層の財やサービスの購入が増加した。しかし、近年はインフレ、自国通貨ペソの下落、雇用情勢の悪化の他、2020年以降の新型コロナウイルス蔓延の影響などにより、アルゼンチン人の購買力は弱まっている。2023年末に発足する新政権がどのような経済改革を行うか、消費市場が回復するかが注目される。

！ 小売・外食市場規模

国家統計センサス局 (INDEC) によると、ブエノスアイレス市内のスーパーマーケットの名目総売上高は、2022年に4,086億ペソとなり、前年比で約77.9%増加した。また、商業施設(ショッピングモール)の名目総売上高は、2,317億ペソと前年比で2.7倍増加した。

SEBASTIÁN MANGE

アルゼンチンの 日本食品

若い世代は新たなグルメ、アート、文化に魅力を感じている。刻々と変わる状況に冷静に適応できるかがカギ。

会社の概要について教えてください。

父が30年前に弊社を創業しました。父は世界を旅行中の1978年にアルゼンチンにやってきました。当時は外国産の商品がほとんどなく、そこにビジネスチャンスを見出しました。世界のグルメをアルゼンチンで普及させたいという理念の下、外国企業の代理店業務を行っています。具体的には、輸入、販売、マーケティング、ブエノスアイレス都市圏での配送です。販売先はハイパーマーケットやレストランなどで、弊社ホームページ上でオンライン販売も行っています。個人にもECプラットフォーム「メルカド・リブレ」を利用して販売しています。創業当初のクライアントは欧米企業でしたが、私も父も親日家のため、日本食品をアルゼンチンで普及させたいと考えました。現在は、日本を含むアジア諸国やブラジルのソース、ドレッシング、飲料を扱っています。

日本食品を扱い始めた当時の状況は？

2000年代初めにアルゼンチンでスシブームが起きました。スシは米国風でしたが、他の日本文化に門戸を開ききっかけとなりました。当時キックマンはすでにアルゼンチン人に認知されていたこともあり、販売先からの評価も上々だったのを覚え



ています。一方、日本酒は普及させるのに多少苦労しました。販売先は日本酒に関する知識をほとんど持ち合わせていませんでした。例えば、日本酒のアルコール度数はワインと同程度ですが、彼らは45度くらいというイメージを持っていました。そこで、弊社は飲み方や使用方法に関するレクチャーを行いました。実際にテイストングしてもらおうと、評価は上向きになり受け入れてもらえました。

近年の日本食品を取り巻く状況は？

アルゼンチン人全般に、外国の文化や習慣を取り込むことで良き習慣を實踐して悪しき習慣を断とうとする大きな変化が見られます。特に若い世代は、新たなグルメ、アート、文化に魅力を感じています。友達や恋人と食事に行く時、アルゼンチン料理でなく、初めて口にする料理にトライするなど、思い出に残る非日常的な体験を求めています。国別にみると、売上高が最も多いのは米国の食品ですが、総売上高に占める割合は、日本を含めたアジア諸国の食品が約55%、日本食品が15%から20%です。特に日本食品は売上げが急激に伸びています。最近ではアルゼンチン人の間で、うま味という概念もようやく知られてきました。



最近特に人気の商品は？

カレーと日本酒です。一般的なアルゼンチン人は新たな食品に手を伸ばす冒険心に欠ける傾向がありますが、実際に調理して食べさせてあげれば、その美味しさに気付いて購入するようになります。弊社もクライアントの要望に応える形で、様々なイベントを開催して参加しています。

アルゼンチンの市場としての魅力について教えてください。

アルゼンチンは間違いなく大きなポテンシャルがあり、チャレンジし甲斐がある国です。商店に行けば品揃えが悪く、品薄なことが一目瞭然です。ブラジル、ウルグアイ、チリ、ペルー、コロンビアといった他の南米諸国の商店の棚はバラエティー豊かな商品で溢れています。

進出を希望する日本企業へのアドバイスは？

「世界には4つの経済が存在する。先進国の経済、発展途上国の経済、日本経済、アルゼンチン経済」という経済学者の言葉があります。アルゼンチンは常に予測できない変化が起こり、状況が刻々と変わります。例えば、近年は原材料の価格が高騰しています。また、輸入規制が厳しいため、満たすべき要件を常にチェックしなければなりません。

弊社はあらゆる変化に冷静に適応することを心がけています。先を読んで行動しようとしても上手く行きません。

今後の展望と計画について教えてください。

将来は、和包丁などの調理器具や日本ビールも輸入したいと思っています。ビールの味は国産と異なりますが、アルゼンチン人に受け入れられるはずですが、それでもチャンスはあると感じています。経済状況もいずれ変化が訪れます。今後さらに多くの国から食品を輸入して、アルゼンチン人が新たなグルメに触れる機会を増やしていきたいと思えます。

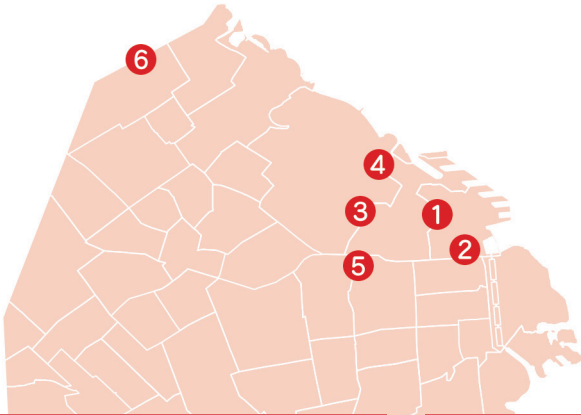
セバスティアン・マンへさん

株式会社 IFISA 代表取締役

プロフィール: ブエノスアイレス出身。オーストラル大学で経営工学を学ぶ。2016 年末に営業・マーケティング部のアシスタントとして株式会社 IFISA に入社。その後、大手顧客担当部長などを経て、2018 年8月より同社の代表取締役を務める。

● エリア別商業施設情報

主な商業施設（ショッピングモール）の紹介



アルト・パレルモ

① パティオ・ブルリッチ



最も伝統と格式のあるショッピングモール。オークションハウスを改装して、1988年にオープンした。高級ブランドの店舗が並び、利用者は外国人観光客や富裕層が多い。

② ガレリアス・パシフィコ



19世紀の建造物を改装して1992年にオープンした。総面積11,000km²、店舗数125軒、入場者は年に1,000万人。利用者はビジネスパーソンや外国人観光客が多い。

③ アルト・パレルモ



1990年のオープン以来、主に女性の顧客をターゲットとしている。近代的なモール内には国内・海外のブランドの店舗が並び、店舗数は106軒。

④ アルコルタ・ショッピング



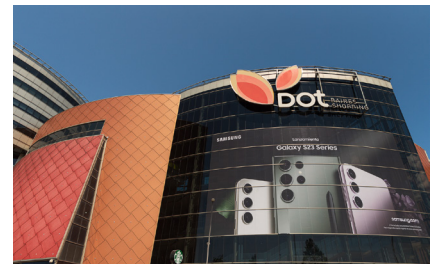
1992年にパセオ・アルコルタとしてオープン。2013年に改装が行われ、アルコルタ・ショッピングに生まれ変わった。最新の流行を扱った店舗が並び、富裕層が多く利用する。

⑤ アバスト・ショッピング



青果市場だった建物を改修し、1998年にオープンした。最上階に広大なフードコート、ゲームセンター、映画館などがあり、中間層の家族連れが主な客層となっている。

⑥ ドット・バイレス・ショッピング



2009年にオープンした市内で最も新しいショッピングモール。環状道路ヘネラル・パス大通り沿いに位置するため、プエノスアイレス市北部や郊外に住む富裕層も足を運ぶ。

宅配サービスの普及

新型コロナウイルス蔓延による外出自粛の影響もあり、近年は宅配サービスの需要が高まっている。ハイパーマーケットやスーパーマーケットでは、ホームページ上でのオンライン注文が可能で、自宅への配送サービスを提供している。これと並行して、ペデイドスジャやラッピなど（ウーバーイーツは2020年に撤退）の宅配サービスを利用する市民も増えている。特にレストラン、カフェ、ファストフード店などは宅配サービス会社と提携し、フードデリバリーサー

ビスを提供している。アプリをインストールして簡単な登録作業を行えば、誰でも利用できる。市内では赤やオレンジのボックスを積んだ自転車やバイクに乗った配達員を見かけることも多い。





アルト・パレルモ



パティオ・ブルリッチ

次世代のショッピングモール『OH! ブエノスアイレス』



コロナ禍の2021年に施工が開始され、2023年末のオープンが予定されている。レコレータ地区に建設される地上3階・地下1階建てのショッピングモールは、世界的なトレンドとなりつつある「オープンモール」をそのコンセプトとしている。空調に吹き抜けパティオ（中庭）を活用した設計になっており、冷暖房設備などは使用しない。既存のショッピングモールと異なる最大の特徴は、店舗用スペースが総面積に占める

割合が約30%と非常に低いこと。広大な敷地の大部分は、エンターテインメント向けの設備に充てられる。ニューヨークのチェルシー・マーケットを意識したマーケット、テラス席を備えたレストランやカフェ、コワーキングスペース、子供向けのテーマパーク、VRなどの最新型のゲームセンター、電動キックボード用の充電ステーション、600台を収容する駐車場が設置される。

インフレにともなう 電子決済の普及



2023年3月時点で、アルゼンチンで発行されている最高額紙幣は1,000ペソ札（今後2,000ペソ札の導入が予定されている）。ただ、歯止めの利かない自国通貨ペソの下落により、1,000ペソは公定レートで680円ほどの価値しかない。これに加え、年々勢いを増すインフレの影響で、買い物に出掛ける際、財布はお札の束でパンパンの状態。そこで、これまでは現金払いが主流であった店舗のみならず消費者も、クレジットカードやデビットカードを利用する機会が増加した。並行して、近年ますます普及をみせているのがメルカド・パゴなどスマホアプリを利用した電子決済。利用可能な電子決済サービスのステッカーが、店舗の入り口やレジの前に貼られている。また、公共料金やインターネットなど各種サービスの支払ができるラビパゴやパゴファシルのような店舗では、ビットコインなどの仮想通貨（暗号資産）で支払い可能な場所も登場している。

● 小売業者の店舗形態

ハイパー・スーパーマーケット

ブエノスアイレス市内には、たくさんのハイパーマーケット（超大型スーパー）とスーパーマーケットが存在する。両者とも広大な敷地やショッピングモール内に店舗を構え、食料品から日用雑貨・家電製品まで、生活必需品がひと通り揃うようになっている。外資系チェーンには、カルフルール（フランス）、センコスド（チリ）などがある。ちなみに、センコスドはジュンボ、ディスコ、ベアといった複数ブランドのスーパーを展開している。アルゼンチン資本の代表的なチェーンとしてはコトが挙げられる。ジュンボやディスコは富裕層や上位中間層、ベアやコトは中間層や下位中間層が主な客層となっている。

政府による生活必需品の価格統制

アルゼンチン政府は2022年末より、インフレ対策の一環として「プレシオス・フストス」というプログラムを実施している。同プログラムは、政府が商業施設や生産者と協定を結ぶことで、食料品をはじめとした生活必需品の価格を統制するものである。対象品目とプログラムに参加する商業施設のリスト、その価格（ホームページ上からダウンロード可能）は数カ月ごとに更新され、2023年3月現在、約2,000品目が対象となっている。政府はモニタリングを定期的に行っており、合意価格を守っていない場合は罰金が科される。ただし、リストの見直しを機に価格も上昇するなど、価格を完全に凍結するには至っていない。価格統制はこれまでに何度も形を変えて実施されており、この先も新たなプログラムが誕生するかもしれない。

ちなみに、各商品の価格を地域、商業施設、店舗ごとにインターネット上で比較できる「プレシオス・クラロス」というプログラムも存在している。

カルフルール



ビタル



ディスコ



ジュンボ



ベア



コト



主なハイパー・スーパーマーケットの売り上げランキング

順位	店名	2021年 (百万ペソ)	2020年 (百万ペソ)	変動率 (%)
1	Cencosud Argentina	303,750	300,683	1.0
2	Grupo Carrefour Argentina	272,200	176,940	53.8
3	Coto	197,303	106,000	86.1
4	Imp. y Exp. de la Patagonia	132,460	137,082	△ 3.4
5	Supermercado Día Argentina	131,100	90,500	44.9
6	Grupo Casino (Sup. Libertad)	51,368	27,597	86.1
7	Coop. Obrera Ltda. de Cons. y Viv.	38,628	20,752	86.1
8	Interbaires	19,091	10,256	86.1

※ Wal-Mart (2022年) および Falabella (2021年) はアルゼンチンから撤退した
出所：経済誌メルカード2022年7月号



ミニスーパー

以前はハイパーマーケットで数週間・数カ月分の食料品や日用雑貨を大量に買いだめするスタイルが主流だったが、近年は購買力の低下などによって、近所のスーパーマーケットで1日分、数日分を購入する市民が増加している。代表的なチェーン店として、フランス資本のカルフルが展開するカルフル・エクスプレス、スペイン資本のディアやディアルコが挙げられる。カルフル・エクスプレスは、富裕層や上位中間層が主な客層で、日本のコンビニのような雰囲気。これに対して、ディアやディアルコは中間層と下位中間層が主な客層で、より庶民的な雰囲気。

中国人経営の個人スーパー



ブエノスアイレス市内のスーパーマーケットは、チェーン店を除いて中国人の個人経営が多い。

そのため、「中国人＝スーパーマーケット」というイメージが定着している。2020年には全国に約7,000から8,000店舗があったとされるが、ブエノスアイレス市内では、パンデミック期に約300店舗が閉店したとされる。また、景気後退により市内から地方都市に移転し始め、現在では経済が安定した近隣国にも移転しているようだ。



市場

昔ながらの市場も市内にいくつか存在する。大きな建物の内部には、肉、野菜、果物、魚、乳製品をはじめ、あらゆる食料品を販売する店舗が数多く集まっている。また、郊外には大規模な中央市場があり、市内の小売業者のみならず、より安値の商品を求め一般市民も足を運ぶ。



とても便利なキオスコ

ブエノスアイレス市内で最も多く見かける商店、それは「キオスコ」だろう。キオスコとは、日本の「キオスク」に近いが、電車の駅構内のみならず、街中のあらゆる場所に存在する。2014年には約10万店のキオスコがアルゼンチン全土に存在していたが、新型コロナウイルス蔓延期間中は行動制限によりその約半数の店舗が閉店したと言われている。特に市内でオフィスビルが多いセントロ地区では、オフィスの撤退によって人通りが少なくなり、キオスコの数は大きく減少した。現在では住宅の多いバレルモ、ベルグラノ、レコレータ地区で、キオスコチェーン店が急増傾向にある。主に菓子、飲料、タバコなどを販売するが、ICカードのチャージ、公共料金の支払いなどもでき、生活必需品か



ら軽食まで、大半の品物はキオスコに行けば揃ってしまうほど便利である。アルゼンチン人10人中9人がキオスコを利用し、うち5人は週4回以上の頻度で通っているという。24時間営業している店舗もあり、日本のコンビニに近い役割を果たしている。

● 輸入食品市場

！日本食品（輸入品に限らず）を扱っているアルゼンチン・欧米系スーパー

ハイパーマーケットの中には、輸入品の醤油、わさび、海苔、カップラーメンなどを取り扱う店舗もあったが、近年は輸入規制の影響で目にする機会が激減した。その代わりにアルゼンチン産の醤油や豆腐が、ハイパーマーケットのみならず、スーパーマーケットや健康食品専門店でも手に入るようになった。



！日本食品を扱う日系・アジア系スーパー



● ヌエバ・カサ・ハポネサ

日系人が経営する市内南部のサン・クリストバル地区にある店舗。食料品、調味料、アルコール類、日用雑貨などを取り扱っている。また、店内にはレストランがあり、ラーメンやうどんなどの麺類から丼物まで幅広く提供している。



● 中華街

日本人駐在員が多く住むベルグラノ地区にある。日本や他のアジア諸国の商品を販売する店舗が数多く並ぶ。レストランも数件あり、アルゼンチン人も多く訪れる。



● 韓国人街

韓国の食料品、調味料、アルコール類、日用雑貨を中心に取り扱っているが、日本食品も手に入る。韓国料理レストランも数軒あるが、利用するアルゼンチン人は少ない。





● インターネット通販市場

アルゼンチン電子商取引会議所 (CACE) によると、2022 年の電子商取引の名目総売上高は2兆 8460 億ペソだった。前年比で 87% 増加し、加盟企業の 59% は 2023 年にさらなる成長が見込まれると予測している。地域別にみると、売上高に占める割合が最も多いのがブエノスアイレス都市圏 (ブエノスアイレス市とブエノスアイレス州の 40 自治体で構成) で 38%、これに中央地域 (ブエノスアイレス州、コルドバ州、ラ・パンパ州) を合わせると 70% にも達する。取引の内訳をみると、92.5% が B2C (企業と個人消費者)、7.5% が C2C (個人消費者同士)。また、最も売上高が多かった品目は、航空券などの旅行商品 (22%) で、これに食品・飲料・清掃用品 (15%)、映像・音響・ゲーム・IT・通信機器 (13%)、家具・装飾品 (12%)、家電・電化製品 (7%) が続く。

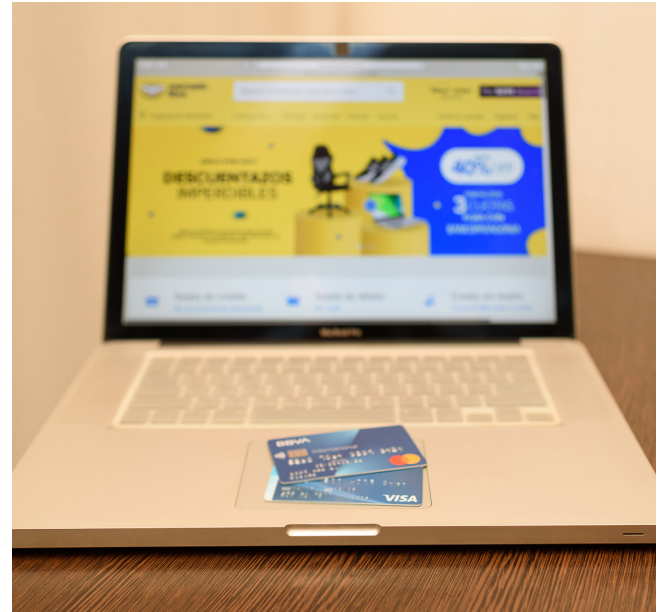
電子商取引が近年拡大した背景には、新型コロナウイルスの蔓延による外出自粛に加えて、受け取り方法や配送に要する日数などの物流面が改善されたこと、クレジットカードや電子決済を利用する購入者が増えたこと、分割払いを提供する販売業者が増えたこと、インターネットやスマートフォンの利用者が増えたことなどがある。

近年の物流インフラの整備により、購入した商品の 53% が宅配、35% が店舗での受け取り、6% が物流業者の支店での受け取りとなっている。また、2020 年以降、配送に要する時間も改善傾向にあり、ブエノスアイレス市内および近郊の場合、通常は 48 時間以内となっている。クレジットカードで支払いを行う購入者は、全体の 76% を占め、うち 55% が 3 回から 6 回の分割払いを利用している。

また、加盟企業の 50% はメルカド・リブレなどのマーケットプレイスを利用しており、総売上高の 49% を占める。

2022 年にインターネット通販を毎週利用している消費者は、前年比で 43% 増加した。インターネット通販利用者は年々増加しており、2022 年の新規購買者は前年比で 59% 増加して 100 万人を超えた。スマートフォンのアプリからの購入者は、全体の 55% を占める。

なお、インターネットで海外の商品を購入した場合、インターネット上で必要な手続を行い、レティーロ地区の国際郵便局まで受け取りに行くのが通例となっている。



日常生活に必要不可欠な電子決済サービス「メルカド・パゴ」

アルゼンチン発の電子商取引プラットフォーム運営会社メルカド・リブレが提供する電子決済サービス「メルカド・パゴ」は、ブエノスアイレス市の日常生活に必要不可欠なサービスだ。利用者はまず、オンラインで開設した口座にクレジットカード、デビットカードを紐付けるか、電信送金で残高をチャージする。現金でもチャージできるので、銀行口座がなくても電子決済ができるようになる。利用者はアプリを使って QR コード決済、送金、投資、分割払いができる他、無料で発行されるマスターカード・ブランドのデビットカードを持てば現金を引き出すこともできる。店舗側は QR 決済だけでなく、オンライン決済にも使うことができる。また、公共交通機関の利用に必要な非接触 IC カード「SUBE」のチャージ、有料道路の電子料金収受サービス「TelePase」への紐付けもできる。市内にメルカド・パゴで支払いができない店舗はほとんどないと言っても良いだろう。その他にも「MODO」、「UALÁ」、「Naranja X」など様々な電子決済サービスが存在する。



アルゼンチンの 日本文化

「日本人は勤勉で礼儀正しい」など非常に良いイメージがある。日本に行くアルゼンチン人が今後ますます増えてくる。

日亜学院について教えてください。

日亜学院は1927年に設立されました。1938年にアルゼンチン文部省から公認校に認可されましたが、第二次世界大戦中に閉鎖されてしまいました。戦後は日本語学校として再開し、1984年に再び公認校として認可されました。幼稚園から小学校4年生まで、全校生徒64名からのスタートでした。現在は、幼稚園が170名、小学校が350名、中高等部が160名、短大が52名です。短大は2021年に新設され、3年間の日本学科課程が設置されています。夜間に週16時間の講義が行われ、日本の経済、歴史、文学、文化などを学びます。これら以外に、日本語を勉強するために土曜日だけ通っている生徒が、幼稚園生から中高校生まで合わせて200名います。また、成人コースの生徒が400名います。

文化センター設立の経緯について教えてください。

日本文化への関心の高まりから、2010年に文化センターが創設されました。文化講座以外にも、市内の学校からの要請に応じて、出張形式で日本文化を普及する活動を行っています。

講座の内容と生徒数は？

大人向けには、生け花、マンガ、書道、歴史などがあります。子供向けには、和太鼓や折り紙が



あります。特にマンガや書道は人気があります。生徒数は500名ぐらいで、85%は非日系アルゼンチン人の方々です。コロナの影響で昨年まではオンラインが中心でしたが、今年から対面形式に戻りつつあります。

日亜学院と文化センターが開催しているイベントについて教えてください

コロナ前までは、カラオケ大会、バザー、ニッポン・マニアと年に3つのイベントを行っていました。コロナ禍ではニッポン・マニアのみをオンラインで2度開催しました。日本の書道家、漫画家、歌手の方々にも参加いただきました。また、アルゼンチンで日本文化の普及に尽力された方々の功績を称える機会も設けました。昨年はニッポン・マニアに開校95周年式典や餅つき大会を加えた「おかえり」というイベントを開催して、約2,000の方がいらっしゃいました。今年は未定ですが、少なくとも1つは開催したいと思っています。

生徒が日本文化に興味を持つきっかけは？

もともと日本に対して「日本人は勤勉で礼儀正しい」など非常に良いイメージがあります。最近の例を挙げれば、ワールドカップで日本人サポーターが観戦後にスタジアムを掃除したことなどです。そうしたイメージに加えて、メディアやインターネット



を通じて入ってくる情報がきっかけになっているようです。

マンガ講座について教えてください。

マンガは特に人気があって、毎年受講者数が多い講座のひとつです。現時点で 50 名の生徒が学んでいます。年齢層は 10 歳から 20 代で、年齢に関係なくレベル分けします。アルゼンチン人のグラフィックデザイナーが、絵の描き方の技術を指導しています。

受講料はいくらぐらいですか？

週1回のコースで月 4,000 ペソぐらいです。

アルゼンチンでの日本文化ブームについて教えてください。

日本語を学びたい人たちが 2000 年ぐらいから現れました。日本文化についても、そのころからでしょうか。日本が大好きで、日本語を勉強して、日本に行きたい、日本で働きたい、住みたいという人たちも出てきています。実際に、日本に住んで仕事や勉強をしている卒業生もたくさんいます。

日本文化ブームの今後の展望について教えてください。

たぶんこのブームは今後も続いて、留学など何らかの形で日本に行くアルゼンチン人がますます増えてくると思います。当センターは 2008 年から

2、3年ごとに2週間の日本滞在ツアーを実施していて、毎回約 30 名が参加しています。参加者は、日本人が親切なこと、街が清潔なこと、店員さんの対応が丁寧なこと、治安が良いこと、時間をきちんと守ることなどに感動するようです。私は日系人として、日本文化を普及するのはとても誇りに思っています。将来アルゼンチンと日本のどちらで活躍するかは人それぞれですが、せっかく日本の言葉や習慣を学んでいるのだから、ぜひ実際の日本を見てもらいたいです。

三井デリリアさん

日亜学院文化センター長

プロフィール: パラグアイで生まれ、7歳の時にアルゼンチンへ。1980年より日亜学院で日本語教師として勤務。その後アルゼンチンの教員免許を取得し、1984年からは一般教員として勤務。小学校日本語部の校長、同学院学院長を経て、現在は同学院の文化センター長と渉外担当を務める。両国の友好と親善に貢献したことが評価され、2016年に外務大臣賞、2018年に旭日小綬章を受賞。

● 日本文化（Jポップ）



ブエノスアイレス市で絶大な影響力を誇る日本文化は、間違いなくアニメ・マンガだろう。ケーブルテレビのアニメ専用チャンネルでは、ドラゴンボール、ワンピース、ナルト、ボルト、デスノートなどが放送され、子供たちだけでなく、日本のアニメを見て育ったという根強いファンも多い。市内の映画館でもアニメが上映されるようになり、「ワンピースフィルムレッド」、「鬼滅の刃」が人気だった。2023年にはスタジオジブリの人気作品の再上映や「すずめの戸締まり」などが公開される。また、スペイン語に翻訳されたマンガの単行本、アニメキャラクターのフィギュアなどを取り扱う店舗も市内に存在する。コスプレファンや同人誌作家のイベントなども市内各地で開催されており、子供から大人まで幅広い年齢層のファンが集結する。ちなみに、ブエノスアイレス市では日本アニメ・マンガの愛好家を「OTAKU」と呼ぶのが一般的。



！〈アンケート企画〉

アルゼンチン人
100人に
聞きました

ブエノスアイレス市内の商業施設において、アルゼンチン人100人を対象としたアンケート調査を実施。「メイド・イン・ジャパン」というと、自動車、オートバイ、電化製品を連想する人が多いようで、上位には各業種の有名メーカーが並ぶ。また、日本のゲーム機が普及しているせいか、任天堂やセガといった企業もランクイン。ちなみに、近年のファーウェイ、シャオミ、サムスン、ヒュンダイ、キアといった中国・韓国企業の積極的な進出により、中韓企業を日本企業と混同している回答者も多かった。

順位	メーカー名	人数
1位	トヨタ	32人
2位	ホンダ	12人
	ヤマハ	12人
3位	日産	5人
	資生堂	5人
4位	三菱	4人
	カワサキ	4人
	東芝	4人
	ソニー	4人
5位	任天堂	4人
	日立	3人
6位	カシオ	3人
	ニコン	2人
	セガ	2人
	スズキ	2人
	ミズノ	2人

「あなたが知っていらっしゃる日本のブランドは？」

日本文化を発信する日本庭園

ブエノスアイレス市内のパレルモ地区には、1967年に開園した日本庭園（Jardín Japonés）がある。亜日文化財団が管理、運営を行い、祝日を含む毎日午前10時から午後6時45分まで営業している。2023年3月時点の入園料は690ペソで、前売り券もある。日本の植物、鯉が泳ぐ池、赤い太鼓橋、茶室など、手入れが行き届いた庭園では、日本画、墨絵、折り紙などの展示会やコスプレ大会など日本文化を伝える様々なイベントが催されている。地元の家族連れ、カップル、地方の学生団体、観光客などが数多く訪れる人気スポット。天気の良い週末や連休には入園に長蛇の列ができてしまうほどだ。



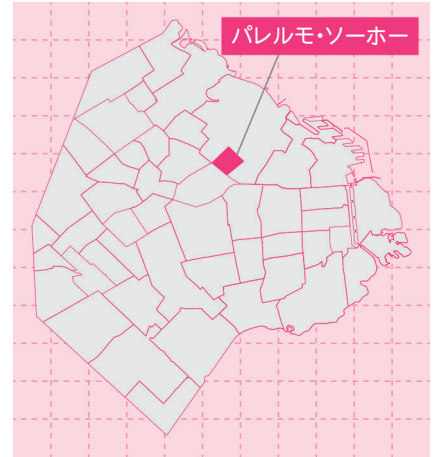
衣



Moda

● ポルテーニョのファッションに関する考え方

ポルテーニョはファッションに対する意識や予算が千差万別。特定のブランドや流行を全員が追いかけるという現象はなく、一人ひとりが身の丈に合った格好をすると同時に、他人のファッションにはあまり関心を示さない。個性的なヘアスタイルや服装をしている人も見かけるが、伝統的に黒、青、グレー、茶色などの無地を好む傾向にある。上位中間層や高所得層は世界の流行ファッションに敏感で、関心が高い人もいる。上位中間層が多く住むパレルモ地区には、最新の流行ファッションを扱ったアパレル店が集まる地区「パレルモ・ソーホー」がある。



● ファッションイベント

ブエノスアイレス市内で毎年開催される最大級のファッションイベントは「ブエノスアイレス・ファッションウィーク (BAFWeek)」。2023年は3月上旬にオベリスコ、レコレータ文化センター、サンマルティン劇場など複数の会場で開催され、主に国内のデザイナーによるファッションショーが行われた。



● ファッションの情報源 (雑誌)



ポルテーニョのファッションの情報源は未だに雑誌が根強いが、徐々にインターネットに移行しているようだ。アルゼンチン雑誌編集者協会によると、女性ファッション誌の発行部数は減少傾向にあるが、販売部数ランキングを見ると、週刊誌の大半を女性ファッション誌が占め、月刊誌でも第2位にランクインしている。

P A U L A I K E D A

アルゼンチンのファッション

アルゼンチン・ファッションは突出した存在感を放っている。トレンドはオリジナリティーへの回帰とサステナビリティ（持続可能性）。

アルゼンチン人のファッションへの関心について教えてください。

関心は高いと思いますが、意識して高くしているわけではありません。特に男性は昔から外見に気を遣い、服を着こなすことが習慣になっています。私はファッション雑誌「パラ・ティ」で21年働いていました。毎週たくさんのアルゼンチン人が「パラ・ティ」を買いに行き、モデルが身に付けているものをチェックしたり、自分のファッションに取り込もうとしたりしていました。今では、ファッションショーやコレクションの発表が日常的なイベントになっています。はっきりとした四季があることも影響していて、アルゼンチン人は季節ごとにワードローブ（洋服ダンス）を一新します。

ファッションへの関心が高まったのはいつからですか？

ファッションブームは90年代から2000年代にかけてピークを迎えました。私は、関心が高まったのではなく安定的に維持されていると理解しています。

ファッションブームの原因は？

グローバル化や旅行、さらにファッションショー、発表を通じて情報がすぐに共有されるようになったことです。



ファッションに最も関心がある年齢層は？

周りの提案や意見をより受け入れやすい15歳から18歳です。

ファッションの情報源は？

TikTok やインスタグラムなどのSNS です。インフルエンサーやファッションショーをライブでフォローできます。

ファッションに関心のある人が集まる場所は？

ファッションイベントのパイオニア的存在のブエノスアイレス・ファッションウィーク、市内のパレルモ地区に集まるアパレルショップなどです。

現在のアルゼンチンのファッションについて教えてください。

アルゼンチンのファッションは、ディテール、クラフツマンシップ、テクスチャー、クラシックとアバンギャルドのミックスが主な特徴として挙げられ、突出した存在感を放っています。ただ、今は何でもすぐ手に入ると同時に供給過剰の状態です。これに対抗する形で、アルゼンチン人は「トレンド」と同義語だった「ファッション」の概念を刷新しようとしています。「ファッション」という言葉の意味が少しずつ変化して、季節によって変わることなく維持される個人のスタイルを指すようになってきました。つまり、ファッション愛好家は、いわゆる「ス



ローファッション」に賛同しています。また、輸入規制や高価な輸入品に対抗しなければならないため、新たな創造性が刺激されます。

世界のファッション界で活躍するアルゼンチン人は？

トップモデルは、女性ではバレリア・マッサ、男性ではペリト・ガルベス、ナチョ・フィゲラス、イバン・デ・ピネダなどが挙げられます。イバン・デ・ピネダは最近30年ぶりにベルサーチのモデルとしてファッションショーに出演しました。また、アルゼンチン人デザイナーは、そのオリジナリティーと企画力によって世界で認められています。ベニト・フェルナンデス（オランダのマキシマ女王のお気に入りのデザイナー）、ラウレンシオ・アド、マルティン・チュルバが有名です。ブランドではコスチューム、フアナ・デ・アルコ（日本でも販売されている）やベロ・アルフィーなどが有名です。

最近のトレンドは？

オリジナリティーへの回帰です。生地の色彩からクラフツマンシップまで、手に入れるのが難しいものやカスタマイズしたものに価値を見出すようになってきました。また、サステナビリティ（持続可能性）も評価されるようになってきました。サステナビリティには、適切な原材料で作られていることだけ

でなく、過剰に購入しないことも含まれています。消費者は、どこで作られたか、何でできているか、どのように洗うかなどを知るため、タグの細かい字まで読むようになってきました。新世代と呼ばれる人たちでさえ、ビビアン・ウエストウッズの「よく選び、必要なものだけを買って、長持ちさせる」という言葉に共感するようになってきました。また、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）以降は、お金の使い方に慎重になっている傾向があります。

池田パウラさん

ジャーナリスト

プロフィール：ブエノスアイレス市出身の日系二世。大学でジャーナリズムを専攻した後、ファッション雑誌「パラ・ティ」で21年間勤務。ニューヨーク・ファッションウィークの取材、高田賢三、カロリーナ・エレーラ、クスト・バルセロナ、トミー・ヒルフィガーなど著名人のインタビューに携わる。2017年に外務省の「対外発信強化のための中南米日系人招へい」プログラムで日本へ留学。現在は全国紙「ラ・ナシオン」に勤務。

● 美容事情

ヘアサロン

20代から30代の女性に人気のヘアサロン。パーティーやイベント前にヘアセットをする客が多い。カット&ブローで3,500ペソ程度。

化粧品小売店



若い女性に人気の低価格化粧品専門店。人気のファンデーションが5,000ペソなど、2万ペソあれば、一通りの化粧品が揃えられる。

ピラティス



特に女性に人気のピラティスだが、週末は様々な人たちにぎわう。週2回の教室で月謝は1万2,500ペソ。

エステ



フェイシャルエステに通う40代の女性が中心。フェイシャル5,000ペソ、ボディ1万5,000ペソ程度。

スポーツジム



男女問わず、会社帰りにジムに通う人たちが増加している。オフィス街の真ん中に位置する上位中間層向けスポーツジム。会費9,730ペソ。

ヨガ

ピラティスより前から流行っており、幅広い年齢層に人気。男性客も多い。週2回の教室で月謝は9,500ペソ。

パーソナルトレーナー



近年は、新型コロナウイルス蔓延の影響で、オンラインや公園などでプライベート・少人数のレッスンを行うインストラクターが急増中。



食



Comidas

● ブエノスアイレスの食文化

！家庭料理・伝統料理

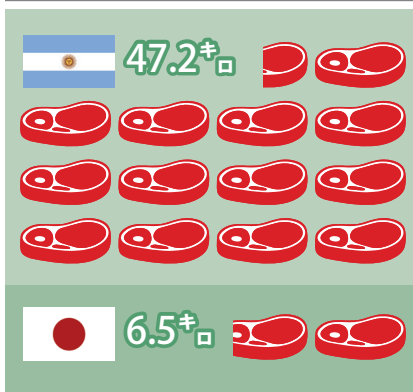
● 肉料理（アサード）

牛肉大国として知られるアルゼンチンでは、昔から主食は牛肉といっても過言ではないとされてきた。中でも様々な部位を炭火で豪快に焼いたアルゼンチン版バーベキュー「アサード」は最もポピュラーな料理だ。ポルテーニョは主にレストランなどで楽し



むことが多いが、郊外や地方に行くと大勢の親戚、友人、知人と集まって、ワインを片手にアサードを堪能する。

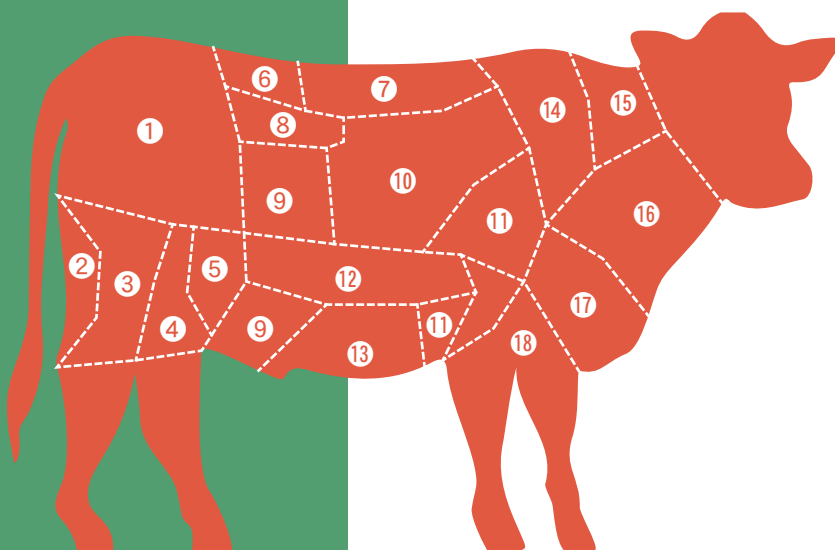
一人あたりの年間牛肉消費量



アルゼンチン肉類商工会議所（CIC-CRA）によると、2022 年末時点の国民 1 人当たり年間牛肉消費量は 47.2 キロ。50 年代は 1 人あたり 100 キロを消費していた。近年のインフレによる牛肉価格の高騰に加え、健康的な食習慣への改善などから年々消費量は減っているが、日本人の実に約 7 倍（日本人 1 人当たりの年間牛肉消費量は 6.5 キロ（2019 年））を消費していることになる。

なお、最近の消費動向の変化としては、買いだめをせずに当面必要な分のみ購入すること、無駄（骨など）の少ない部位を好むこと、より割安な部位、ブタ肉、鶏肉などで代替していることが挙げられる。

また、ブエノスアイレス市内では、日本料理をはじめ、世界各国の料理がレストランで味わえるようになった。保守的だった食文化に多様性が生まれてきた証左であろう。



- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ① Cuadril
ランプ | ⑩ Asado
リブ |
| ② Peceto
そともも | ⑪ Paleta
肩ロース |
| ③ Nalga
うちもも | ⑫ Matambre
なかバラ |
| ④ Bola de lomo
しんたま | ⑬ Falda
ともバラ |
| ⑤ Colita de cuadril
トモサンカク | ⑭ Roast beef
かた |
| ⑥ Bife angosto
サーロイン | ⑮ Espinazo
ネック（後部） |
| ⑦ Bife ancho
リブロース | ⑯ Azotillo
ネック（前部） |
| ⑧ Lomo
ヒレ | ⑰ Pecho
肩バラ |
| ⑨ Vació
わきバラ | ⑱ Osobuco
すね |



● チョリパン

チョリソー（ソーセージ）をパンに挟んだサンドイッチのこと。これにチミチュリ（オリーブオイル、酢、香辛料などを混ぜたソース）をかけて食べる。アサードを提供するレストラン、市内の大きな公園やラプラタ川沿い、コンサートやサッカーの試合などのイベント会場近くに立ち並ぶ屋台で食べることができる。黒いソーセージのモルシージャを同じくパンに挟んだモルシパンもある。



● ミラネサ（スプレマ）

薄切りの牛肉に塩コショウやハーブなどで下味をつけ、溶き卵とパン粉で衣をつけて油で揚げた（オーブンで焼くこともある）ビーフカツ。トマトソースやチーズをのせたナポリターナもある。また、鶏むね肉を使ったチキンカツはスプレマと呼ばれる。



● ピザ・パスタ

イタリア移民が多いため、ピザやパスタも非常にポピュラーな食べ物となっている。本格的な石窯で焼いたピツァ・ア・ラ・ピエドラもある。パスタはスパゲッティ以外にも、ラビオリ、ラザニア、カネロネなど種類が豊富。ソースはトマトベースが主流。



● エンパナーダ

ひき肉、とり肉、ハムとチーズ、トウモロコシ、野菜などを生地で包んで焼いた（または油で揚げた）パイ。具は地方や州ごとのオリジナリティーが加わるため、郷土色が非常に豊かな食べ物である。



● ロクロ

白トウモロコシを豆、カボチャ、チョリソー、肉などと一緒に長時間煮込んだシチューのような料理。主にアルゼンチンの北西部で食べられているが、毎年5月25日の革命記念日と7月9日の独立記念日には温かいロクロを食べるのが習慣となっている。



● プチューロ


何種類もの牛肉と野菜を大きな鍋に入れ、水や香辛料と一緒に長時間煮込んだポトフのような料理。庶民的な料理とされ、秋から冬にかけての寒い時期に食べるのが一般的。



● タマレス・ウミータ

ともにアルゼンチン北西部を代表する料理。つぶしたトウモロコシに、ウミータスはチーズ、タマレスは肉や野菜を混ぜ、トウモロコシの葉で包んで蒸したものの。

安価でお腹いっぱい食べられるボデゴン



ボデゴンとは、ブエノスアイレスの伝統的な料理を比較的安く提供している大衆食堂のことだ。ボデゴンの発祥はその昔、イタリアやスペインからやってきた移民者たちが下町に開店した日用品や食品を販売する小さな店舗（アルマセン）だ。そこではお酒も販売していたが、ついでにつまみなど食べ物も欲しいという客の声に応じて家庭料理を提供する食堂になったとされる。一般的には、上品でお洒落な内装はなく、1人では食べきれないボリューム満点の料理が出てくる。インフレの加速で経済的に厳しい中、外食が大好きなポルターニョが足を運んでいる。ボデゴンに欠かせない料理は、ミラネサ、イカリングのフライ、トルティージャ、パスタ、デザートにはドゥルセ・デ・レチェたっぷりのプリンとクレープ風パンケーキ（パンケケ）などだ。



● マテ茶

マテ茶の葉をひょうたん型の容器に入れ、お湯を注いでから専用のストローで飲む。ビタミンやミネラルが非常に豊富。味は緑茶に似ているが、苦みが強いので、砂糖を加えて飲む人も多い。



● アイスクリーム

イタリア移民が多いため、アイスも種類が非常に豊富。バニラやチョコレートその他、ドゥルセ・デ・レチェ、南部パタゴニア地方のベリーなどを使用したものもある。



一人あたりの年間ワイン消費量



24リットル



● ワイン

アルゼンチンのワインは大半がメンドーサ州で生産される。マルベック、トロンテス、カベルネ・ソーヴィニオンなどの種類がある。ちなみに、2021年の国内消費量は1人当たり年間24リットル（日本人は1人当たり年間3リットル）で、近年は低下傾向にあるという。



● ドゥルセ・デ・レチェ

牛乳に砂糖を加え、鍋でゆっくり加熱して作ったキャラメル。アルゼンチンのほぼ全てのスイーツに使用されている。



3リットル



● 最近のトレンド



主にオフィス街で増加しているのが、サラダを中心とした健康志向のメニューをテイクアウトできるファストフード店。利用者は、近くのオフィスで働く人たちが多く、野菜をより多く摂取する意識が芽生えてきたことがうかがえる。

一時の熱狂的なスシブームは過ぎたものの、日本料理をはじめとするアジア各国の料理は依然として人気が高い。なかでもタイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアなど、東南アジアのエスニック料理を提供するレストランが増加している。

以前はハンバーガーといえば、アメリカ資本のファストフードチェーン店のイメージが強かった。しかし、グルメバーガーなど、値段より味やオリジナリティーで勝負する店舗が増加している。

近年、クラフトビールが20代から40代を中心にブームとなっている。クラフトビールは1990年代から急増し、その種類の豊富さから、これまで国内や欧米の大手メーカーが独占してきた市場に風穴を開けつつある。

近年、「オマカセ」と呼ばれるスタイルを提供する日本食レストランが増加している。カウンター席に座りながら、板前さんが仕入れたての海の幸で寿司を握る姿を生で見ることができるといって人気を集めている。

ブエノスアイレスでラーメンブーム

以前は日本料理の代名詞といえば寿司だったが、近年はラーメンが一大ブームを巻き起こしている。ブエノスアイレス市内にはラーメンを提供するレストランが急増中。なかには、自家製麺にチャーシュー、ネギ、もやし、メンマ、味たまご、海苔などをトッピングした、本格的な豚骨ラーメンを提供する店舗もある。店内では、箸やレンゲを器用に使いこなしながらラーメンを堪能するアルゼンチン人の姿も見られる。しかし、ヨーロッパ移民の子孫が多いアルゼンチン人は、そもそも食事に音を立てる行為はマナー違反という意識が強い。したがって、食べる時に麺をすすってズルズルと大きな音を立てる食べ方には、いまだ強い抵抗感があるようだ。「郷に入っ

ては郷に従え」の格言にあるように、アルゼンチンでラーメンを食べる時は、くれぐれも周囲から「ヌードルハラスメント！」などと注意されぬよう心がけたい。





● 日本食レストラン紹介

90年代のスシブーム以降、ブエノスアイレス市内には数多くの日本食レストランが存在する。アルゼンチン資本の日本食レストランは、現地の富裕層や上位中間層をターゲットにしており、スシを中心に提供する店舗、または他のアジア料理のメニューと一緒に日本食メニューを提供する店舗が大半。食材も料理の味付けや盛り付け方もアルゼンチン人向けに現地化している。これらを好むポルターニョが多い一方で、日本人や日系人が経営するレストランで本格的な日本食に舌鼓を打つポルターニョも増えている。なお、長年愛されてきた日本橋、北山、入船は、コロナ禍の中で惜しまれつつ閉店した。



！ 日本料理のトレンド

2000年代まで、一般的なアルゼンチン人が知っている日本料理といえば寿司のみだった。そのため、ブエノスアイレス市内の日本料理店も、スシや刺身を中心にメニューを構成していた。しかし、近年はスシ以外の料理も次第に浸透してきており、メニューにも大きな変化がみられる。その代表格とも言うべき存在がラーメンである。市内では、数年前からスーパーマーケットでインスタントラーメンが入手できるようになり、今では、アルゼンチン人はさらに本格的なラーメンを求めるようになった。そのため、以前は乾麺を使用していた店があったが、現在は専門の製麺業者まで存在する。また、日本料理店のみならず、他のアジア料理店などもメニューに加えるほどのラーメンブームになっている。



日本食普及ネットワーク「ガストロ・ハポ」

2018年、日系人が経営する小規模な日本料理店が中心となって、日本の食文化の普及を目的とした互助組織「ガストロ・ハポ」を立ち上げた。約50店舗が加盟している。食材を共同購入することでコストを下げたり、プロモーションイベントを行ったりしている。日本食を広めるため、「日本食週間」や市内外でのイベントの開催だけでなく、テレビやラジオ番組への出演、SNSを通じた情報発信など、日本食の普及活動を活発に行っている。

現状、ガストロ・ハポ加盟店でも日本産食材はあまり使われていない。輸入品である日本産食材は高価なため、主な客層である現地中間層向けに価格が合わないからだ。しかし、現地の食材では代替できない料理もある。その1つがカレーだ。2022年10月にジェットロとガストロ・ハポが連携して、ブエノスアイレス市において日本のカレーの試食会を行った。カレーはまだ馴染みが薄いのが、試食した人たちの反応は良く、飲食店関係者からは今後積極的に取り扱いたいとの声が上がっている。



● ブエノスアイレス市の日本産食材サポーター店



レストラン



● いちそう

バルブネーラ地区にある、市内で最もオーセンティックな日本の味が楽しめる日本食レストラン。火曜日から土曜日の夜に営業している。客層は日本人や現地の富裕層とビジネスパーソンが中心。平均予算（ドリンク別）は8,500ペソ。



● ビストロ東京

ベルグラノ地区でスシや家庭的な日本食を提供するレストラン。水曜日から土曜日の夜に営業している。客層は日本人や現地の富裕層やビジネスパーソンが中心。平均予算（ドリンク込）は5,500ペソ。



● ミルタキ

バレルモ地区でラーメンを専門とするレストラン。火曜日から日曜日の夜に営業している。客層は現地の若者、富裕層と上位中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は4,000ペソ。



● 沖連

サン・クリストバル地区に位置する在亜沖縄県人連合会の会館内にある。沖縄そばやゴーヤチャンプルーを提供し、火曜日から土曜日の夜に営業している。客層は日本人と現地の上位中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は2,500ペソ。



● 富士山

ベルグラノ地区の中華街にあり、現地好みのスシや味を提供する。火曜日から日曜日まで、昼から終日営業している。客層は現地の富裕層と上位中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は5,000ペソ。



● 日会食堂

サン・テルモ地区に位置する在亜日本人会の会館内にあり、定食など提供する。月曜日から土曜日の昼と夜に営業している。客層は日本人と現地の中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は4,000ペソ。



● 腹切り・でうな

バレルモ地区にある内装がお洒落なレストラン。火曜日から日曜日の夜（土日は昼も）に営業している。客層は、現地の富裕層と上位中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は3,500ペソ。



● ブリ・オマカセ

バレルモ地区にあるおまかせスタイルのレストラン。火曜日から金曜日の夜に営業している。客層は、現地の富裕層が中心。平均予算（ドリンク込み）は1万9,000ペソ。



カフェ



● アオ・クマ・カフェ

漫画本、コミックスが展示され、購入もできるパレルモ地区にあるカフェ。木曜日から日曜日の午後に営業している。客層は現地の上位中間層（若者や学生）が中心。平均予算は2,500 ペソ。



● カワイイ・クラブ・カフェ

パレルモ地区にあるかわいいスイーツやキャラクターグッズを提供するカフェ。水曜日から日曜日の午後に営業している。客層は現地の上位中間層（若者や学生）が中心。平均予算は2,500 ペソ。



居酒屋



● ソーシャル寿司

ヌーニェス地区にある一風変わった内装のユニークな居酒屋。火曜日から土曜日の夜に営業している。客層は現地の富裕層と上位中間層が中心。平均予算（ドリンク込み）は7,500 ペソ。



● ノビル

ベルグラノー地区の中華街にある。火曜日から日曜日まで、昼から終日営業している。客層は現地の上位中間層が中心。平均予算（ドリンク別）は4,500 ペソ。

アルゼンチン資本の日本食レストラン（スシバーなど）



● Sushi Club（スシ・クラブ）

ブエルト・マデーロ地区、パレルモ地区、ベルグラノー地区など、富裕層や上位中間層が住む地域を中心に店舗を展開するチェーン店。メニューはスシが中心。



● Senu（センス）

ショッピングモールのフードコート内に店舗を展開するチェーン店。メニューはスシの他、定食などのセットメニューを提供している。



● Fabric Sushi（ファブリック・スシ）

ブエルト・マデーロ地区、パレルモ地区、ベルグラノー地区など、富裕層や上位中間層が住む地域を中心に店舗を展開するスシチェーン店。キャッチコピーは「ソウルフード」。

T A K E H I R O O H N O

アルゼンチンでの 飲食店経営

経済的な事情からリーズナブルでポピュラーなものを求める傾向にある。厳しい状況のなか、いかにやりくりしていくかが勝負。

お店について教えてください。

ブエノスアイレス市内のパレルモ地区で、オイアンとシャオバオの2店舗を経営しています。オイアンはスペイン（バスク）料理、シャオバオは台湾バオ、餃子、ラーメンなどアジア系ストリートフードを提供しています。月曜日を除く火曜日から日曜日まで、昼 12:30 から深夜 0:30（水曜日と木曜日は夜 11:30）まで営業しています。

人気メニューは？

3年ぐらい前から台湾バオ（蒸しパンを使ったバーガー）が流行っています。

お客さんの年齢層は？

昼は 30 代から 45 歳ぐらいまでのファミリー層、夜は 20 代から 30 代前半の若者が中心です。お客さんの 80% はアルゼンチン人です。

アルゼンチン人の食に関する変化は？

最近、ボデゴン（安価で伝統的な公衆食堂）が流行っています。ただ、実際は流行っているのではなく、経済的な事情から行く場所が限定されてきました。以前は週 3 回だった外食が、今は週 1 回。週 1 回になると、メニューはミラネサ（ビーフカツ）とフライドポテトで、スシとはなりません。これにイタリア料理が続き、スシは 3 番手ぐらいです。



以前の外出頻度に戻るには、アルゼンチン経済の回復を待たなければなりません。

最近のアルゼンチン人の傾向は？

スシに飽きてきた印象があります。歴史的な背景から、他の南米諸国より食べ物に関して保守的です。「ミラネサとフライドポテトと寿司、どちらを食べたい？」と聞けば、「ミラネサとフライドポテト」と答えます。スシは少数派で、対抗するのは難しいと思います。基本的にはリーズナブルでポピュラーなものを求める傾向にあります。ただ、最近 10 年はメディアの影響もあり、食のグローバル化が進みました。若い人たちは好奇心が旺盛で、新しいものを求めています。他の南米諸国と比べるとゆっくりですが、いずれ保守的な食生活も変わってくると思います。

アルゼンチン人は一般的に魚をあまり食べないイメージがありますが。

長年にわたって魚介類を食べる文化がないのは、流通面に課題があって美味しい魚を食べて来なかったからです。質の良い魚介類は獲れるのですが、魚を新鮮な状態でブエノスアイレスに運ぶ流通網が発達していません。また、鮮魚店も鮮度を保つ指導を受けていません。臭いがする魚は誰も



食べたくありません。美味しい魚介類を提供できるようにになれば、アルゼンチン人も魚が好きになると思います。

食材の調達方法は？

販売価格を設定したうえで、食材費を計算しています。その金額の範囲内で調達します。輸入品は高いので、価格競争に勝てるよう、国産品を使用しています。つまり、入手可能な食材でメニューを考えます。

アルゼンチンならではの苦労は？

合計 25 年住んでいますが、経済が好景気だったことは一度もありません。現段階で、経済が今後好転するとは断言できません。そこで、厳しい状況のなか、いかにやりくりしていくかが勝負になってきます。

アルゼンチンで開業を希望する人へのアドバイスは？

日本料理が大量に売れるのであれば、日本料理だけを提供しても良いと思います。ただ、アジア料理のなかの日本料理として売ったほうが、ポピュラーになり易いです。拘るとするのは極力避けるようになっています。寿司などの日本料理に特化してしまうと、困難な道を歩むことになります。経営の観

点から言えば、拘ると儲かりません。また、流行・浸透している料理を提供するようにしています。現段階で一風変わった料理を提供するのはリスクを伴います。さらに、アルゼンチン独特のリズムやテンポに適應することも求められます。

今後の展望と計画について教えてください。

将来的にコンサルティング事業を南米規模で展開して、南米の方々に恩返しがしたいです。日本人的思考や日本人的経営理念、経営方針を南米で普及して、食品業界の方々にプロのマネジメントを習得してもらえればと願っています。

大野剛浩さん

飲食店経営コンサルタント

プロフィール:北海道出身。大学・専門学校を卒業後、スペイン料理店で働く。スペインに渡った後、1996年にアルゼンチンへ。2000年に日本へ一旦帰国し、2006年に再びアルゼンチンへ。2009年に独立・開業。2008年から約10年間現地ケーブルテレビ局の料理番組に出演。現在はコンサルタント業を営む傍ら、大学で講師も務める。

● ファストフード店

ファストフード業界は特に外資の参入が進んでいる。スターバックスは2008年5月にアルゼンチン1号店をオープンし、2021年時点でブエノスアイレス市、ブエノスアイレス州、ロサリオ市、コルドバ州、ネウケン州、メンドーサ州に合計131店舗を展開している。直営店方式のスターバックスと対照的に、フランチャイズ方式で店舗拡大を狙うのがサブウェイ。2022年時点でアルゼンチン全国に65店舗を展開している。両者に共通するのは、近年のインフレや消費減退にもかかわらず、価格を抑えることで顧客を維持してきたこと。現地のニーズに柔軟に対応することも重要なポイント。また、近年の傾向として、健康志向や鮮度志向のファストフード店、地場資本の新たなファストフード店が増加していることが挙げられる。



ブエノスアイレスでも広がるヴィーガン

近年、肉、魚、卵や乳製品など動物性食品を一切取らない「ヴィーガン」が世界的に注目されているが、肉が主食のアルゼンチン、特にブエノスアイレス市でもヴィーガン人口が増加しつつある。アルゼンチン・ヴィーガン連盟によれば、ここ数年でヴィーガン人口が急増し、2022年にはアルゼンチン全人口の約20%を占めるといふ。割合では女性の方が僅かに男性より多い。健康のため、動物愛護のためにと、35歳から49歳の年齢層のヴィーガン人口が最も多い。ブエノスアイレス市内には、100%ヴィーガン料理を提供する飲食店は

● アルゼンチン資本

MOSTAZA



2000年に大ブエノスアイレス圏に1号店をオープン。現在はアルゼンチン国内に約160店舗を展開する。従業員数は約6,500人。ウルグアイやパラグアイでも事業を展開している。

DEAN & DENNYS



2012年に市内パレルモ地区に1号店をオープン。現在はアルゼンチン国内に25店舗を展開している。ウルグアイでも事業を展開し、他の中南米諸国にも進出を予定している。

BURGER54

2014年にブエノスアイレス市郊外のマルティネスに1号店をオープン。現在はブエノスアイレス市内と大ブエノスアイレス圏に5店舗を展開している。

DELTORO BURGERS

2015年にセントロ地区に1号店をオープン。現在はブエノスアイレス市内とブエノスアイレス州に3店舗を展開している。



17店舗あるとされるが、ヴィーガン食材は割高で、大手スーパーでもまだ手に入り難いのが現状のようだ。しかし、近年では、市内スーパーでもアルゼンチン乳製品大手のラ・セレンシマ社が生産する植物性ミルクなどが多く売られるようになった。

● 外国資本

マクドナルド



1986年に1号店をオープンし、現在ではアルゼンチン国内に約200店舗を展開する。従業員数は約1万6,000人。

ケンタッキー



2012年にショッピングモール「アルト・パレルモ」内に1号店をオープン。現在は国内に24店舗（市内に9店舗、大ブエノスアイレス圏に11店舗、その他4店舗）を展開する。

バーガーキング



1989年にアルゼンチンに上陸。現在はアルゼンチン国内に約115店舗を展開する。従業員数は約5,000人。

ウェンディーズ



2012年に市内ベルグラノ地区に1号店をオープン。現在はアルゼンチン国内に8店舗（市内に4店舗、大ブエノスアイレス圏に4店舗）を展開する。

サブウェイ



2010年にアルゼンチンに上陸し、現在はアルゼンチン国内に65店舗を展開する。



● カフェ文化

！ 代表的なカフェチェーン店

● アルゼンチン資本

アパナ



アルゼンチンを代表するカフェチェーン。1947年の創業当初は、製菓業者としてスタート。1995年にカフェ業界に参入した。現在ではアルゼンチン国内の他、欧米を含む12カ国で合計270店舗を展開する。自家製のチョコレートやクッキーも販売している。

マルティネス



1933年の創業以来、コーヒーの輸入、生産、卸売販売を扱っている。1994年にカフェ業界に参入し、現在ではアルゼンチン国内のみならず、欧米や他の中南米諸国にも進出し、合計200店舗を展開する。スイーツの他、ランチも提供している。

● 外資

スターバックス



2008年にアルゼンチンに上陸した大手コーヒーチェーン店「スターバックス（スタバ）」は、瞬く間に店舗数を増やしていった。オリジナルメニューも加えた商品の価格は、他のカフェより割高にもかかわらず、連日多くの顧客で賑わっている。

地元のカフェ



地元のパン屋



ブエノスアイレスのカフェとパン屋で絶対に欠かせないのがメディアルーナだ。クロワッサンに似ているが生地がもちりしていて、甘いシロップがかかっている。カフェでの定番の朝食の1つがメディアルーナとカフェ・コン・レチェ（1:1の割合のミルク入りコーヒー）のセットだ。パン屋では、メディアルーナのほかに、カスタードクリーム、ジャム、ドゥルセ・デ・レチェ入りの菓子パンを「ファクトゥーラ」と呼ぶ。スペイン語で「請求書」を意味する単語だが、その由来は政治的な面もあるようなので、ここでは省きたい。昔は、職場で朝食にファクトゥーラ1ダースを差し入れる光景をよく見かけたが、今や1ダース約1,800ペソと、気軽に差し入れるには割高感が出てきた。

昔ながらのカフェ 「カフェ・ノタブレス」



ブエノスアイレス市内には、外国人旅行者にも人気のカフェ・トルトーニ（1858年創業）をはじめ、長い歴史と伝統を持つカフェが数多く存在する。市政府は、86店舗の老舗カフェを文化遺産「カフェス・ノタブレス」に指定している。古くからの友人と、たわいないテーマについて、時を忘れて語りつくす。昭和の純喫茶のような雰囲気のカフェが、未だ多く残っている。

● ポルターニョの外食事情

アルゼンチンには日本のようなお弁当文化がなく、家から持参するとしても、せいぜいサンドイッチなどの軽食である。したがって、給食がある場合を除き、学生も社会人も昼食は基本的に外食または中食（デリバリーやテイクアウト）となる。また、外食好きな国民性のため、最低週1回は夜に外食するという習慣も根強く残っている。しかし、近年のインフレ、固定費の高騰、競争の激化、新型コロナウイルス蔓延による規制などにより、外食産業も厳しい状況に置かれている。ホテル・レストラン・菓子屋・カフェ協会（Ahrcc）によると、2020年から2021年にかけて約1万2,000店のレストランが閉店に追い込まれた。そんな中、各店舗ともに生き残りを賭けて様々な戦略を練っている。ファストフード店では、朝食メニューの提供時間を延長したり、割安の昼食メニューを時間限定で提供したりしている。また、購買力の低下によってレストランに足を運ばなくなった中間層向けに、割高ではあるがグルメなメニューを提供する店舗も出現している。以前は、昼に開店した後、午後3時ごろに一度閉店し、夜8時ごろから再び営業するのが主流であった。しかし、最近は効率性を重視して、昼の開店後は終日営業するレストランも増えている。ちなみに、コロナ以降は在宅勤務の割合も増加したため、ほぼ全てのレストランが宅配メニューを提供している。

● Eさんの1週間



	月	火	水	木	金	土	日
☀ 昼食	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷
🌙 夕食	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷
予算	🍷 中食		🍷 中食		🍷 中食		🍷 中食
☀ 昼食	1,500 ペソ		1,500 ペソ		1,500 ペソ		2,000 ペソ
🌙 夕食	3,000 ペソ		3,000 ペソ		3,000 ペソ		6,000 ペソ

● Lさんの1週間



	月	火	水	木	金	土	日
☀ 昼食	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷
🌙 夕食	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷	🍷
予算	🍷 中食		🍷 中食		🍷 中食		🍷 中食
☀ 昼食	1,800 ペソ		1,800 ペソ		1,800 ペソ		2,000 ペソ
🌙 夕食	2,500 ペソ		2,500 ペソ		2,500 ペソ		5,000 ペソ



！ 外食時（昼食）のオプション

セントロ地区で働く人の場合、予算に合わせたオプションがいくつかある。余裕がある人はレストランやカフェ、より経済的に済ませたい人はフードコートやファストフード店、とにかく「早く、安く」という人は路上のフードトラックを利用することになる。

～ 2,000 ペソ

● 路上



● フードトラック



2,000 ペソ～ 2,500 ペソ

● ファストフード



● フードコート



2,500 ペソ～

● レストラン



● カフェ



暮ら



Estilo
de vida



● 住宅事情

ブエノスアイレスに限らず、アルゼンチンでは家族の絆を大切にする反面、子供たちが20代、30代になっても親元を離れず、一緒に生活し続けるケースが多い。一時その傾向に変化がみられたものの、近年の経済状況の悪化により、若者の自立は困難になっているようだ。ブエノスアイレス市の場合、2人以下で構成される世帯が63.5%、3人で構成される世帯が16.4%、4人以上で構成される世帯が20.1%を占めている。一世帯当たりの平均人数は2.3人とされている。持ち家比率は53.1%で、34.7%は賃貸、1.9%は職場、10.3%は不法に占拠した場所に住んでいる。持ち家比率は減少傾向にあり、住宅を購入できない者が増加し、賃貸住宅に住む世帯の割合が増加している。家屋形態は、78%がマンション、19.5%が一軒家、2.5%が民宿、ホテル、アパート、共同住宅となっている。ちなみに、市内のほぼ全ての住宅は下水道に接続されており、水洗トイレを使用している。

┃ 物件（購入・賃貸）の相場

購入・賃貸ともに、物件の立地や広さなどによって価格は大きく異なる。一般的に市北部（パレルモ地区、レコレタ地区、ベルグラノー地区）は高く、南部に向かうにつれて安くなる傾向にある。

2023年3月現在、購入の場合、最も安い地区（ビジャルガーノ地区）で1,019ドル/m²、最も高い地区（プエルト・マデーロ地区）で5,585ドル/m²、市内の平均価格は1m²あたり2,199ドルとなっている。

また、賃貸の場合も地区によって価格は異なるが、2寝室とリビングダイニング、キッチン付きの約70m²の物件の1カ月あたりの賃料は、市内の平均で156,078ペソとなっている。

ちなみに、物件の売買取引は米ドルで、賃貸はペソで行われるのが習慣だ。外国人向けの賃貸物件の場合は、米ドル現金払いを条件とすることもある。自国通貨が不安定なことからアルゼンチン人に対してもドルで賃貸料を求めることもある。近年の景気後退に加えて外貨の購入が制限されたため、資産保全の観点から売り控えにつながり、物件の販売件数は減少傾向にある。また、コロナ禍でリモートワークが推奨された影響によって、市内から郊外または地方都市に移住する市民も増加している。

家屋の形態

● 一軒家

ブエノスアイレス市内における一軒家の多くは、ベルグラーノ地区、パレルモ地区など中央地区から離れた地区に位置している。マンションと異なり管理費がなく、庭付き、部屋数が多くまた広く、安価の場合も多いため、人数の多い家族などに選ばれる。



● マンション

新しい物件ほど1フロアあたりの住戸数が少なく、高級な物件ほどセキュリティサービスやレクリエーション施設が充実しているが、一方で管理費は割高となる。近年は多目的サロン、スポーツジム、プール、サウナ、パーベキュー設備などを備えた物件が増えている。



● PH (Propiedad Horizontal)

「プロピエダ・オリソントアル」の略称で、複数の住戸が入った長屋タイプのアパート。建物のエントランスを通ると共用廊下があり、一般的には片側に住戸が並んでいる。各住戸はそれぞれの玄関扉があり、完全に独立している。老朽化した物件が多いが、購入価格・家賃、管理費が割安な点が特長。



● お宅訪問

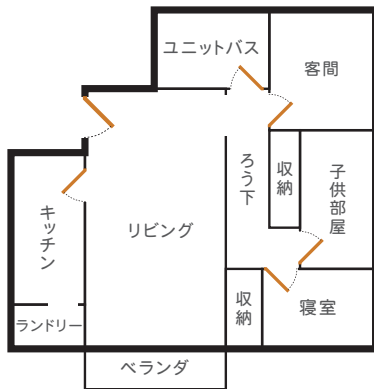
！とある中間層家庭 フェルナンドさん一家

家族構成

父親：フェルナンドさん
(38歳、コンサルタント)

母親：セレステさん
(36歳、公務員)

長女：フランチェスカちゃん
(11カ月)



世帯収入：月55万ペソ

間取り：部屋：4、キッチン：1、
トイレ：1

面積：約75m²

家賃：月9万3,000ペソ
(固定資産税・管理費込み)

固定資産税：月1,500ペソ

管理費：月2万ペソ

電気代：月1,750ペソ

ガス代：月1,250ペソ

水道代：月2,000ペソ

通信費：月4,000ペソ
(インターネットのみ)

駐車場代：月1万3,000ペソ

困っていること：

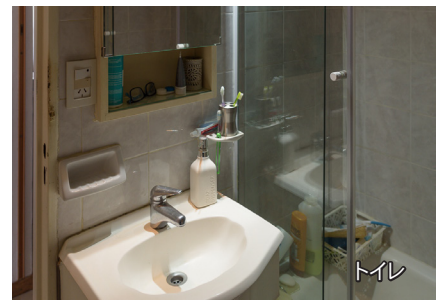
夫婦の寝室が狭いこと

あったらよいと思うもの：

移動式エアコン

休日の過ごし方：

午前中、父親はスポーツジムに通い、
母親は家事。午後は家族で公園などに
外出し、夜は家で映画などを見て過
すことが多い。



● ポルテーニョの長期休暇と週末

一般的に、子供たちの学校の夏休みと冬休みにあわせて、1月から2月にかけて数週間から1カ月の夏季休暇、7月に1週間から2週間の冬季休暇を取る人が多い。また、週末は家族や友人と過ごす人が多く、市内では公園、映画館、ショッピングモール、スポーツ施設、劇場、ディスコなどが人気スポットとして挙げられる。

祝祭日カレンダー

1月 1日	元旦
2月 下旬～	カーニバル
3月 中旬	
3月 24日	真実と正義を記念する国家記念日
4月 2日	マルビーナス戦争退役軍人の日
4月 中旬～	聖木金曜日
5月 1日	メーデー
25日	5月革命記念日
6月 17日	グエメス将軍逝去
20日	ベルグラノー将軍逝去(国旗の日)
7月 9日	独立記念日
8月 17日	サンマルティン将軍逝去
10月 12日	文化の多様性を尊重する日
11月 20日	国家主権記念日
12月 8日	聖母受胎日
25日	クリスマス

(写真提供: ATB 社)



ポルテーニョの旅行先

1990年代、カレンシーボード制(1ドル=1ペソ)を採用していた時代は、海外で余暇を過ごす人が多かった。しかし、2001年の経済危機を発端とする自国通貨ペソの切り下げに加え、景気後退やインフレ、外貨の購入制限により、行き先に国内を選ぶ人が増加した。2022年のアルゼンチン国内旅行者は、前年比で90.2%増加して約2,390万人。また、支出額は前年比で176.2%増加して約5,165億ペソに達した。

アルゼンチン政府は国内観光を促進するためのプログラム「プレ・ビアへ」を実施している。同プログラムを利用した場合、旅費の最大50%が払い戻される。利用者は600万人にのぼり、観光業界に約2,000億ペソの経済効果をもたらした。人気の行き先は、バリローチェ、イグアスの滝、ウシュアイア、エル・カラファテ、メンドーサ、プエルト・マドリン、マル・デル・プラタなど。

夏になると、ブエノスアイレス市および近郊の中間層は、車で4時間から5時間のマル・デル・プラタ市や周辺のリゾート地に向かうため、道路や宿泊施設が常に混雑する。

全体的な傾向として、ポルテーニョが綿密な計画をあらかじめ立てることはなく、目的地での宿泊先や過ごし方は直前または当日まで未定というパターンがほとんど。そのため、旅行会社・代理店が企画したツアーを利用する人は少なく、インターネットの予約サイトや航空会社のホームページなどを通じて、チケットやホテルを個人で手配するのが主流となっている。



余暇トレンド



ブエノスアイレス市では市民の健康への意識が高まっている。市内には、SportClub (86 店舗)、Megatlon (22 店舗)、smartfit (9 店舗)、ONFIT (7 店舗) などの大手をはじめ、個人経営のスポーツジム・フィットネスジムが数多く存在する。近年は各地区の公園や広場にフットサルコート、バスケットコート、卓球台、運動器具などが設置され、週末のみならず平日もスポーツで汗を流す市民の姿を見かける。市内で最も大きなパレルモ公園は、ランニング、ジョギング、サイクリング、ローラスケートを楽しむ人たちが賑わう。

ブエノスアイレス市民の最も一般的な週末の過ごし方は、友人や家族と一緒に食事に行くこと。レストランやバーが数多く立ち並ぶパレルモ地区には、若者向けのバーやパブが集結する「パレルモ・ハリウッド」と呼ばれる場所があり、市民のみならず多くの外国人観光客で夜遅くまでにぎわっている。また、旧市街のサン・テルモ地区はタンゲリーア（タンゴショーを楽しめるお店）が集まっていることで有名だが、近年は開発が進み、若者や外国人観光客向けのレストランやバーが次々と登場している。

映画鑑賞や演劇鑑賞もポルターニョにとって人気の高い余暇の過ごし方。上映作品の多くはハリウッド映画だが、アルゼンチンの国産映画も人気が高い。最近では、ジブリ作品をはじめとする日本のアニメ映画も上映されていて、幅広い年齢層から支持を集めている。また、オベリスコ付近のコリエンテス大通り沿いには数多くの劇場があり、特に週末は老若男女問わず多くの市民が観劇を楽しんでいる。周辺には世界三大劇場のひとつ「コロソ劇場」もあり、世界水準のコンサートやバレエなどを鑑賞できる。

ブエノスアイレス市は多文化共生を目的に、「BA Celebra」というイベントを 2009 年から通年で開催している。アルゼンチン社会はヨーロッパ、アジア、アフリカ、他の中南米諸国からの移民とその子孫で構成され、ブエノスアイレス市も約 50 の移民コミュニティが存在する。同イベントは、週末に大統領府前の 5 月大通りで行われ、特設ステージでは民族舞踊やコーラスなどのショーが披露され、大通り沿いには郷土料理や手工芸品のスタンドが並ぶ。毎回コミュニティが異なり、もちろん日本人・日系人コミュニティも毎年参加している。

ブエノスアイレス市で行われる主なイベント

ブエノスアイレス市では、国際インディペンデント映画祭、国際ジャズフェスティバル、タンゴ世界大会、国際ブックフェア、ナイトミュージアム、ミュージック・ロックフェスティバルなどを開催しており、国内のみならず海外からも多くの観光客が訪れる。

アルゼンチンの日系人社会



アルゼンチンは、ブラジル、ペルーに次いで中南米で 3 番目の規模を誇る日系人社会が存在する。1886 年に最初の日本移民、牧野金蔵氏がアルゼンチンに到着。現在は約 6 万 5,000 人（出所：日本外務省）の日系人が、ブエノスアイレス市、ブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州、ミシオネス州などに生活し、各地に日本人会、市内パレルモ地区には日本庭園がある。また、日系人の約 70% が沖縄県にルーツを持つこと、クリーニング業や花卉栽培の従事者が多いことが特徴として挙げられる。ブエノスアイレス市で開催するイベント「BA Celebra」にほぼ毎年参加し、日本文化の普及に大きく貢献している。また、近年は日系人の企業経営者が集まった亜国ビジネスクラブや REN（日系ネットワーク）などの団体も結成され、日本・アルゼンチン両国のビジネスや文化交流を推進している。

世界で最も古い歴史をもつ競技「ポロ」もブエノスアイレスで楽しめる

アルゼンチンはサッカーだけでなく、ポロでも強豪国だ。ポロは、昔から上流階級のスポーツとされるので馴染みがないかもしれないが、19 世紀にイギリスでルールが制定された、馬に乗って行う伝統的な競技。この競技は、19 世紀後半にアルゼンチンに上陸し、以降国内では、乗馬用のクリオージョ品種をサラブレッドと交配し、世界で最も優れたポロ用の馬が誕生したとされる。パレルモ地区の競馬場の前にはポロ競技場（カンポ・アルヘンティノ・デ・ポロ）もあり、毎年年末に開催される「ポロ・パレルモ・オープン」大会が楽しめる。



● ポルテーニョのとある週末の過ごし方①

独身者の場合

MERCEDES

名前：メルセデスさん

年齢：29歳

職業：事務職



朝は公園を散歩



友達と待ち合わせ



世界で最も美しい書店でショッピング



夜は老舗のピザ屋で乾杯





● ポルテーニョのとある週末の過ごし方②

家族の場合

LA FAMILIA DE FERNANDO

父親：フェルナンドさん
(38歳、コンサルタント)

母親：セレステさん
(36歳、公務員)

長女：フランチェスカちゃん
(11カ月)



近所のカフェで朝食



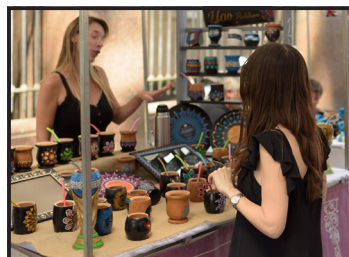
午前中は家族で公園へ



レストランで昼食タイム



午後は蚤の市でショッピング



夜は自宅でゆっくり

FIN

● 就労事情

ブエノスアイレス市の労働市場



アルゼンチンの労働市場は、コロナ禍での経済悪化の影響を受け、非正規雇用が増加傾向にある。コロナ後の雇用の状況は若干の回復を見せているが、近年のインフレで、賃上げ率が物価上昇率に追いつかない状況が続いている。

アルゼンチンでは、日本のような決まった就職活動期間はなく、卒業後に各自がインターネット上や新聞の求人広告を見て応募したり、親戚・友人・知人などを介して就職口を探したりするのが一般的。基本的に信頼関係を重視するコネ社会のため、赤の他人より知人、知人より友人、友人より親戚を優遇する傾向にあるとされる。

近年では特に、電気・機械、船舶、石油分野のエンジニアの人材需要が高いが、労働市場のニーズを満たすだけの人材を育成・輩出できる教育機関が不足していることに加えて、卒業が難しいこと、就職後の労働時間が不規則になりがちであることから、理工系学部卒業者の倍以上の人材需要があるとも言われる。

なお、INDECによると、ブエノスアイレス市の2022年第4四半期の失業率は3.9%であった。特に若者、女性、市内南部の失業率が高いことが特徴として挙げられる。

自営業者

アルゼンチンでは、雇用状況の悪化に伴い、自営業者（フリーランス）も増加している。また、コロナ禍でリモートワークが定着したこと、自国通貨ペソが下落を続けていることも、この傾向を加速させる要因となっている。

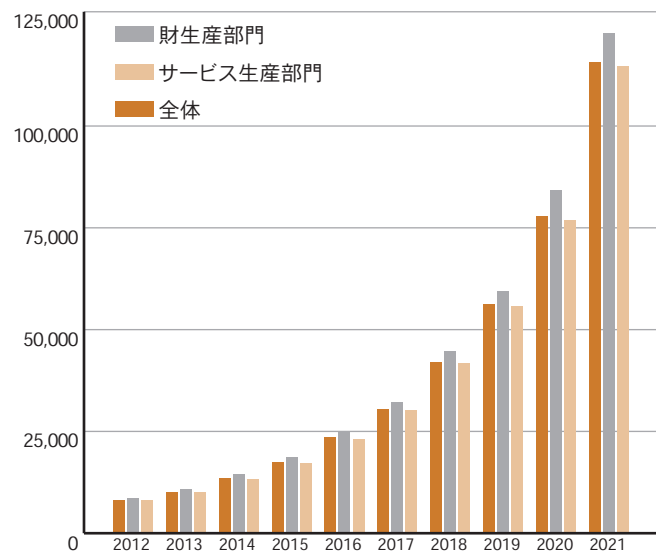
フリーランスの人材登録・紹介サイトは複数あり、なかでもFreelancer.comには約70万人のアルゼンチン人が登録している。需要が多い分野は、情報技術（プログラマー、開発、ウェブアプリケーションテスト、ホームページ作成）、デザイン（ウェブ、グラフィック、インテリア）、建築家、マーケティング、広告作成、検索エンジン最適化、記事の執筆、翻訳、編集など。

時間に束縛されることなく、柔軟かつ自由なライフスタイルを追求できることも、フリーランスを選択する際の魅力となっている。ちなみに、アルゼンチン人のフリーランスの時給は15ドルから60ドルで、世界で5番目に安いといわれている。

ブエノスアイレス市の部門・分野別の平均給与

部門	平均月収（ペソ）
製造業	412,275
建設	238,382
その他の財生産部門	805,425
商業	322,637
ホテル・レストラン	163,483
輸送・保管・通信	510,211
金融	703,808
不動産	373,843
教育・社会・保健サービス	308,353
行政・防衛・社会保障	478,396
コミュニティ・個人サービス	359,517
その他のサービス部門	260,112

出所：ブエノスアイレス市財務省（2022年12月、賞を含む）



出所：ブエノスアイレス市財務省

※近年のインフレに伴い、労働組合による年間約90%の賃上げがある。

職種別賃金

業種	役職	月給（ペソ）
製造業	ワーカー（一般工職）	133,883 ~ 196,076
	エンジニア（中堅技術者）	460,400 ~ 560,500
	中間管理職（課長クラス）	580,000 ~ 770,500
非製造業	スタッフ（一般職）	152,292 ~ 205,831
	スタッフ（営業職）	152,837 ~ 205,831
	マネージャー（課長クラス）	725,000 ~ 960,000
	店舗スタッフ（アパレル）	152,837 ~ 189,798
	店舗スタッフ（飲食）	151,266 ~ 252,010

出所：ジェットロ投資コスト比較調査より

（2022年12月時点、各種手当、ボーナスを含む）



職業観



仕事に対する考え方は、世代間で大きなギャップがあるようだ。以前は、生活の安定のため、大企業に就職してキャリアを積み、長い間（場合によっては定年まで）働くことが望ましいとされていた。しかし、1980年代または90年代以降に生まれたミレニアル世代、ジェネレーションY、ジェネレーションZ、センテニアル世代と称される世代は、価値観がまったく異なるという。彼らは、マンネリ化や長期の目標を立てることを苦手とし、将来性が見いだせず「行き詰った」と感じたら、すぐさま新しい職場を求め、天職や理想の職場に出会えるまで転職を繰り返す。また、新たなモチベーションや経験、柔軟性、意思決定への参加、上司や同僚との感情面での交流、自分の業績に対する周囲からの評価を求めること、将来の独立・起業を希望する者が多いことも特徴として挙げられる。企業側も人材の流出に歯止めをかけ、人材を確保するために様々な努力をしているようだが、同世代の平均勤続年数は約2年と言われている。

また、「ニ・ニ」と呼ばれる若い世代も増えている。「ニ・ニ」とはスペイン語の「ni estudia, ni trabaja」から派生した言葉で、勉強も仕事もしていない者を指す。INDECのデータに基づく報告書によると、若者の約30%に相当する約150万人が「ニ・ニ」に属しているという。



〈アンケート企画〉

アルゼンチン人
200人に
聞きました

ブエノスアイレス市内の小学生200人を対象にアンケート調査を実施。男子は、さすがワールドカップ優勝国だけあって「サッカー選手」が堂々の1位に。女子は、芸術系の職業が数多くランクインする結果に。また、近年は男女ともユーチューバーになりたい子供が増えていることが分かる。

順位	男子	女子
1位	サッカー選手	芸術家
2位	プログラマー	ケーキ職人
3位	エンジニア	教師
4位	パイロット	医者
5位	ユーチューバー	グラフィックデザイナー
6位	建築家	体操選手
7位	ジャーナリスト	作家
8位	俳優	歌手
9位	獣医	ユーチューバー 弁護士
10位	実業家	エンジニア 心理士

「大人になったらなりたい職業は？」



● 結婚事情

結婚状況



ブエノスアイレス市財務省の年次世帯調査（2021年版）によると、14歳以上の47.3%が法律婚または事実婚による既婚者、15.8%が離婚者、29.1%が独身者である。また、初婚年齢は男女とも上昇傾向にあり、2010年にはそれぞれ33.5歳と31.9歳だったのが、2020年には36.2歳と34.5歳となっている。この背景には、結婚式のコストが近年のインフレなどで高騰したため、カップルたちが資金を蓄えるのにより多くの時間を要するという経済的な事情もあるようだ。さらに、新型コロナウイルス蔓延による規制で、多くのカップルが結婚式を挙げられなかったことも要因として挙げられる。

ブエノスアイレスの葬儀事情

ブエノスアイレス市内では時代の流れとともに、黒い喪服を着用するといった厳格な様式で行われる葬儀がなくなりつつあるようだ。葬儀ではまず、4時間から10時間の通夜（ベロリオ）が行われる。市内ではこれが自宅で行われることはほとんどなく、斎場で行われる。そして通夜の翌日には埋葬される。カトリック信者が多いことから昔は土葬が普通だったが、墓の維持費の上昇や若い世代の墓離れなどが原因で、現在では火葬率が高まっている。

2022年12月時点の葬儀費用は、遺体の斎場、墓地や火葬場まで輸送のみで12万から14万ペソ。通夜や埋葬費用を含むと23万から40万ペソかかる。弔問客に提供される飲食者の内容や棺桶の材質などにこだわった葬儀になると130万から150万ペソかかる。火葬のみの費用は5万ペソだ。墓の維持費は、公営の場合は年間約1万5,000ペソ、民営の場合は年間5万から7万ペソとなっている。

19世紀のブエノスアイレス市には約40の墓地が存在していたと言われるが、現在では3つの公営墓地が残るだけだ。市が管理し南西部に位置するフロレス墓地、面積が95ヘクタールで市内最大のチャカリタ墓地、エピータやアルゼンチンの富豪、著名人などが多く眠るレコレータ墓地の3つだ。観光スポットとしても有名なレコレータ墓地は、6,000基以上の霊廟や数えきれないほどの納骨堂や壁型墓があるが、納骨堂の価格が1㎡あたり1万ドルと高額のため、多くは手頃な価格の壁型墓を選択するようだ。民営墓地は主にブエノスアイレス州にあり、公園のような明るいところが多い。



結婚式のトレンド

ブエノスアイレス市財務省によると、2021年に同市内で結婚式を挙げたカップルは6,389組。前年は3,446組（2019年は1万4,775組）まで減少していたため、若干の回復傾向にある。一生に一度と言われる結婚式。最近は各種サービスを提供するウェディング業者も増えているようだ。しかし、実際に結婚式を挙げるとなると、一体どのくらい費用がかかるのか？

まず、住民登録事務局での法律上の手続きは無料。披露宴はカップル次第。披露宴のタイプや内容、招待客の数、季節や式場などに左右される。

例えば100名の招待客を想定した場合、予算はおおよそ290万ペソから710万ペソ。最も費用がかさむのが食事で150万ペソから250万ペソ。式場レンタルは60万ペソから120万ペソ、フォトグラファーやカメラマンは19万4,000ペソから48万5,000ペソ、式場装飾は25万ペソから200万ペソ、DJや照明サービスは15万ペソから30万ペソ、新郎衣裳は10万ペソから20万ペソ、ウェディングドレスは4万ペソから35万ペソ、パーティーグッズは2万5,000ペソから5万ペソ、メイキャップは1万ペソから1万5,000ペソ。

また、近年のトレンドとして、新型コロナウイルス蔓延による規制が緩和されて以降、緑豊かで自然に囲まれた屋外を式場を選ぶカップルが増えていることが挙げられる。





● 教育事情

！ ブエノスアイレス市の教育制度



7年間の初等教育、5年間の中高等教育、合計12年間で義務教育となっている。また、初等教育の前に幼児教育（保育園または幼稚園）と小学予備校が存在し、中高等教育を修了すると大学や専門学校に進学できる。2021年時点でブエノスアイレス市内には、合計2,765校の教育機関が存在し、うち1,271校が公立、1,494校が私立である。

基本的に公立校は授業料が無料のため、低所得層や下位中間層の子供たちは公立校、高所得層や上位中間層の子供たちは私立に通う傾向がある。公立校は全校白衣が制服となっており、多くは授業が半日（午前中または午後のみ）の上、教員のストライキによる休校、老朽化した設備のメンテナンスの欠如など、非常に多くの課題を抱えている。一方、私立校は各校独自の制服が存在し、国語や数学といった通常の教科の他、音楽、外国語、レクリエーションといった授業を行ったり、授業を全て外国語で行ったりするバイリンガル校も存在する。このような事情から、学費が高額にもかかわらず、子供を私立校に通わせることを希望する中間層の親は増加傾向にある。



最高峰の大学、 国立ブエノス アイレス大学

アルゼンチンで最も権威のある大学として知られるのが、ブエノスアイレス市内に

複数のキャンパスを構える1821年創立の国立ブエノスアイレス大学だ。約30万人の学生を擁する。アルゼンチンで最も古い大学は、コルドバ州にある国立コルドバ大学（1613年創立）だが、国立ブエノスアイレス大学も200年を超える長い歴史を有する。国立ブエノスアイレス大学は入学が難しい大学としても知られる。入学するためには1年間の一般教養課程で学んだ後に試験に合格しなければならず、2、3年かけて入学する人もいる。私立大学では多くの場合、入学試験はないが、簡単に卒業できるわけではない。高く評価されている私立大学として、カトリカ大学、パレルモ大学などがあり、いずれもブエノスアイレス市内にキャンパスを構えている。ブエノスアイレス市は学びの中心地でもある。

！ 学歴

INDECの2010年の国勢調査によると、アルゼンチン人の最終学歴は、小学校中退が10.2%、小学校卒業が25.4%、中高等学校中退が14.7%、中高等学校卒業が23.0%、専門学校・大学中退が9.3%、専門学校・大学卒業が17.4%となっている。男女別にみた場合、女性のほうが専門学校・大学卒業者の占める割合が高い。ちなみに、ブエノスアイレス市民の最終学歴は、初中高等教育中退が19.2%、中高等学校卒業以上が80.8%。

大学教育に関しては、2020年時点でアルゼンチンの大学生は合計234万3,587人。男女比は4:6、公立と私立の割合は7:3である。大学は入学するのは簡単だが、卒業するのが難しいと言われる。また、修了した中高等学校のレベルによっては、大学から急にレベルが上がるため、授業についていくのが困難というケースも。ちなみに、最も人気がある専攻は社会科学で、これに 응용化学、人文科学、健康科学、基礎科学と続く。

学生が専攻を選ぶ際に考慮するのが、難易度と流動性（仮にその後専攻を変更した場合に認定される単位数）と言われる。また、在学中に就職先が決まって中退してしまうケースもあり、特に理工系は入学者の卒業率が著しく低い。アルゼンチン人の多くの子供たちが抱える数学アレルギー、1990年代の輸入代替政策で工業高校が大きく減少したことも影響を及ぼしている。

！ 学習塾および家庭教師

ブエノスアイレス市には、全国規模でフランチャイズ経営を行ういわゆる大手の学習塾や補習塾はなく、個人経営の学習教室または家庭教師が一般的である。ただし、国立ブエノスアイレス大学（UBA）と提携している中高等名門校が市内に3校あり、同校の入試対策を行う塾も存在する。例えば、同入試対策に定評のある学習塾「SILVINA & GUSTAVO」や「NOESIS」では、入試対策コースと個人指導の2種類を提供している。「SILVINA & GUSTAVO」では、入試対策コース（週6時間）は、入学料4万ペソに加えて学費（月額）5万8,000ペソ。個人指導は、授業料が1時間4,000ペソ。

近年は共働きの家庭が増えているため、親が子供たちを塾に通わせることを希望するケースも増えているという。

YOSHIYUKI SUGAWARA

日本人子女の 教育

本校の特徴は小規模校で異学年交流が盛んなこと。現地校との交流を通じた現地理解教育に取り組んでいきたい。

ブエノスアイレス日本人学校の概要について教えてください。

1968年に大使館附属日本人学校として開校しました。現在は在アルゼンチン日本文化教育協会という形で認可され、日本政府や海外子女教育振興財団の支援を受けて運営されています。本校の特徴として、小規模校であり、異学年交流が盛んで児童生徒の団結が強いことが挙げられます。実際、生徒たちは日本に帰国後も家族ぐるみで交流を続けています。

現在の児童生徒数と教員数は？

児童生徒は29名（小学部26名、中学部3名）です。教員は、校長を含めて12名（文部科学省派遣8名、現地採用2名、非常勤講師2名）です。非常勤講師は、週2日5時間スペイン語の指導を行っています。

通学の方法は？

全児童スクールバスで通学することが原則になっています。送迎代は月1万2,000ペソ（60ドル）くらいです。



学校にはどのような施設があるのでしょうか？

3棟の建物に学年ごとの教室、家庭科室、理科室、音楽室、図工（技術）室、パソコン室、教材室、保健室があります。体育は、多目的スペースと運動グラウンド、兼用コートを使って行います。プールや遊具もあります。学芸会や式典、雨天時の体育などを行う講堂もあります。

授業は学年ごとに分けて行っているのでしょうか？

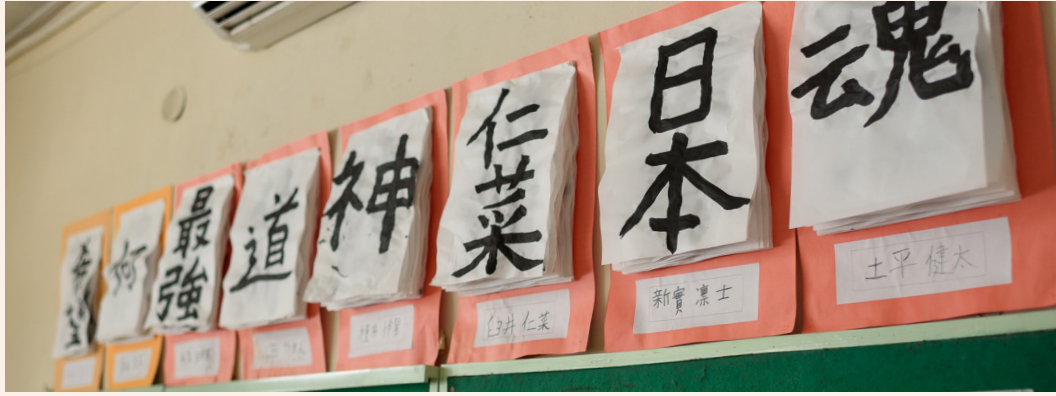
国語・算数（数学）・理科・社会・英語は学年ごとに授業を行っていますが、技能教科は、隣接する学年ごと一緒に複式授業を行っています。

1時間あたりの授業時間は日本と同じですか？

小中ともに45分です。ただし、そうすると1時間あたり50分の中学部の授業時間が毎時間5分足りなくなります。そこで小学部から中学部まで全ての学年で7時限授業を実施しています。登校は8:20、授業開始は8:45、12:30から1時間の昼食休憩、下校は16:15頃になります。

年間行事予定について教えてください。

コロナ前は、運動会や学習発表会、遠足、社会見学、修学旅行といった日本で行われている行事



をはじめ、全校キャンプや天体観測会・音楽鑑賞会、バザーなども行っていました。今年はほぼ以前の活動通り実施でき、3年ぶりに泊を伴う全校キャンプ、2泊3日の修学旅行も行いました。

部活動はあるのでしょうか？

小学校4年生以上は、毎週木曜日 16:30 から1時間程、バスケットボールを中心に活動しています。部活動はPTAが運営しています。

授業料はいくらでしょうか？

月10万5,000ペソ（525ドル）ですが、4半期ごとにインフレ調整を行っています。副教材は授業料に含まれていません。

給食はあるのでしょうか？

以前はありましたが、現在は全員がお弁当を持参しています。

学年の途中で入学できるのでしょうか？

日本国内で転校するのと同じで、全く問題ありません。

受験対策は行っているのでしょうか？

進路指導は本校の弱点でしたが、今年は教育財団や私塾によるオンライン進路相談を開催しまし

た。また、各家庭でもオンラインなどを活用して対策をしているようです。

今後の展望や計画について教えてください。

コロナ禍の現状に合わせ、小規模校の特色を生かした活動を実施していく予定です。また、アルゼンチンと日本の違いやお互いの良さを知るため、現地校との交流を通じた現地理解教育に今後も取り組んでいきたいと思っています。

菅原義之さん

ブエノスアイレス日本人学校長

プロフィール：宮城県内の小学校で37年間（インドネシアの日本人学校での3年間、校長7年間含む）教員を務めた後、同県気仙沼市の青少年育成支援センター主任を経て、2021年4月にブエノスアイレス日本人学校に校長として赴任。

● 医療事情

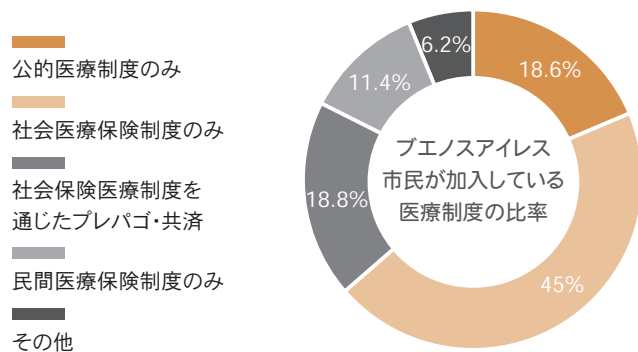
医療制度・施設

アルゼンチンの医療制度は、主に公的医療制度、社会医療保険制度、民間医療保険制度の3つから構成される。公的医療制度は、国や自治体が管轄し、全ての国民が原則無料で医療サービスを受けられる。社会医療保険制度は、職域別医療保険組合からなるオブラ・ソシアルと、年金受給者向けの高齢者医療保険制度（PAMI）で構成される。民間医療保険制度は、個人が民間医療保険会社を通じて、事前に医療費を支払う（プレパゴ制度）。

ブエノスアイレス市民の場合、2021年時点で45%が社会保険医療制度、18.8%が社会保険医療制度を通じたプレパゴ・共済、18.6%が公的医療制度、11.4%が民間医療保険制度、6.2%がその他の制度に加入している。公的医療制度の加入者は、46の保健所、35の公立病院において無料で診察を受けられる。

一般的に、公立病院はインフラ、人材、物資などの面で多くの課題を抱えており、私立病院と比較した場合、提供されるサービスの質で大きく劣るのが特徴として挙げられる。さらに、地方の公立病院は、設備面での課題に加えて給与水準が低いため、勤務を希望する医師が少なく、慢性的な医師不足に悩まされている。

ただし、医療のレベルが高い私立病院がたくさんあるかという点、そうでもないのが現実のようである。インターネットサイト「アメリカ・エコノミア（América Economía）」が発表した2021年中南米11ヵ国・61の病院ランキングによると、ランクインしたアルゼンチンの病院はわずか4施設（うち3つはブエノスアイレス市内にあるイタリア病院、ドイツ病院、グエメス病院）で、ブラジルやコロンビアといった他の南米諸国に後れを取っている。



出所：ブエノスアイレス市財務省（2021年）

従事者・病床数

アルゼンチン保健省の2020年の発表によると、アルゼンチンで登録されている医師（生産年齢）は約18万人にのぼり、国民1,000人あたり4.04人（ブエノスアイレス市では16.63人）の医師が存在することになる。また、年間約4,900人が医学部を卒業しており、医学生に男性より女性が多いのも特徴として挙げられる。実際、2022年時点では医学生の68.7%を女性が占めており、若い医師ほど女性の割合が高い。

一方、医師より絶対的に不足しているのが看護師である。アルゼンチン保健省の2020年の報告によると、約23万人が看護師に従事しており、国民1,000人あたりの看護師の数は5.21人（ブエノスアイレス市では6.64人）と少ない。年々高齢化が進み、全国で少なくとも約4万人の看護師が不足しているという。原因としては、給与水準が低いことに加え、労働条件が過酷なことが挙げられる。世銀によると、2017年時点の病床数は、国民1,000人あたり5.0床となっている。



公立病院



私立病院



ポルターニョの健康

アルゼンチン観光スポーツ省の2021年の報告書によると、ブエノスアイレス市民の57.5%はスポーツや運動を定期的にする習慣がある。このうち、34.9%が公共スペース（公園など）、30.6%が自宅、18.9%が民間スポーツ施設、5.6%が公共スポーツ施設を利用している。最も人気のあるアクティビティはサッカーで、屋外でのゲーム、レクリエーション活動、テニス、陸上競技と続く。また、男性のほうが女性より定期的に運動をしており、高学歴、子供がいる家庭ほど、健康維持のために何らかの取り組みを行っている。しかし、運動不足は依然として深刻で、ブエノスアイレス市民の成人の73.5%が前肥満（BMIが25.0以上30.0未満）または肥満（BMIが30.0以上）と診断されている。男女とも50歳から65歳の年齢層でこの傾向が顕著である。所得水準が低いほど前肥満および肥満の割合が高いこともわかっている。子供や青少年も同様で、6歳から14歳の子供の18.8%が前肥満、20%が肥満と診断されている。政府も運動・栄養指導を行っているものの、大半が学校でしか運動しないことが大きな課題となっている。



診察の予約も一苦労

新型コロナウイルスの蔓延により外出が自粛された期間、多くの市民が通院や治療を控えた。パンデミックが落ち着き、多くの人が一斉に通院を再開した結果、私立の大病院での診察予約に3か月から4か月も待たなければならない状況が続いている。グアルディアと呼ばれる救急外来であればその日のうちに診てもらえるが、専門医が診てくれるわけではない。医師と直接連絡できる場合は医師の裁量でもっと短い日程で予約を取れたり、受付窓口で毎日電話すれば、キャンセル枠をすぐに回してくれたりもする。公立病院や診療所など様々な選択肢はあるが、私立の大病院にかかりたい場合は注意が必要だ。



I C H I R O S U Z U K I

アルゼンチンの 医療

高血圧症、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が問題。今後は予防医療の普及に力を入れていきたい。

アルゼンチンの医師資格について教えてください。

医師になるには、大学の医学部で約7年間勉強して、地域の病院でインターンを行います。その後、保健省に大学の修了証明書を提出して、医師免許を申請・取得します。アルゼンチンの大学は学費が割安という経済的メリットから、ブラジル、コロンビア、ベネズエラ、ボリビア、ペルーといった他の中南米諸国出身の学生が多く在籍しています。授業料は、公立は外国人も含めて無料ですが、私立はかなり高額です。外国人学生は卒業後帰国する人が大半ですが、アルゼンチンで勤務する人もいます。実際に、当病院もボリビア人、コロンビア人医師が勤務しています。また、医療レベルが他の中南米諸国より高いため、最近はこちらの国々に対する研修も行っています。特に癌などの難しい病気は、遺伝子の変異を診断・分析して投薬治療を行うなど、治療法に大きな進歩がみられます。

アルゼンチン人が抱えている健康問題について教えてください。

最近ではベジタリアンも増えていますが、肉中心の食生活や塩分の過剰摂取が原因で、高血圧症、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が長年にわたっ



て問題になっています。特に心疾患は最大の死亡要因で、血管系疾患や脳梗塞が多いのも特徴です。がんは、男性は肺がんと大腸がん、女性は乳がんと大腸がんが多いです。予防医療が十分に普及していないため、早期発見が遅れてしまうケースが大半です。また、仕事が忙しすぎて検診を受ける時間がない、公立病院は診察料が無料のため患者が殺到して予約を取るのが難しい、機器の故障などで検診が受けられないといった事情もあります。

アルゼンチンの医療の課題は？

ハード面は、公立病院と私立病院で、医療器具や設備に関して大きな差があることです。優秀な私立病院は設備が整っているため、精密検査などが受けられます。これに対して、一般の公立病院は、抗がん剤などの高額な医薬品や高度な医療機器を備えていないため、高度な治療を受けることができません。当病院は公立ですが、高度医療治療センターに指定されているため、周辺の私立病院より高度な治療を受けることができます。ちなみに、アルゼンチン人の36%が公立病院のみを利用しています。また、医療機器に関しては、アメリカ、日本、ヨーロッパ、中国からの輸入品なので、地方都市



では入手やメンテナンスに課題を抱えています。ソフト面は、コロナ以降、厳しい労働環境によって医師を志す学生が減っていることです。医師の平均給与は初任給が月 12 万から 15 万ペソ（600 ドルから 750 ドル）で、他の国と比べると低い水準です。アルゼンチン人も優秀な医師はいるのですが、経済的な理由から海外研修といった育成の機会に恵まれず、スペインなど海外に移住・就職してしまうケースもあります。

アルゼンチンと日本の医療で異なる点は？

日本人医師に独特の職人気質が挙げられると思います。例えば、日本での研修中に肝臓の腫瘍の血管内治療を行っていましたが、日本人医師がとても器用かつ繊細で、優れた技術を持っていたのが印象的でした。また、様々な専門に関して研究を行っている医師の数が、アルゼンチンは日本より少ないです。研究を進められる環境づくりが今後の課題だと思います。

今後の展望や計画について教えてください。

アルゼンチンの最大の課題は教育です。症状や対処法といった病気に関する知識が患者さんに不足しています。インターネットなどの情報源を活用

して、自己管理を強化してほしいと願っています。私たち医師も予防医療の普及に力を入れていきたいです。また、現在では地方で高度な治療を受けられないため、自己負担や州政府の援助を受けて都市に患者さんを搬送していますが、今後はネットワークやシステムの構築が重要になってくると思います。

鈴木一郎さん

エル・フルセ病院・放射線画像診断科長

プロフィール: 放射線科専門医。ドミニカ共和国出身の日系二世。3歳の時にアルゼンチンへ。国立プラタ大学の医学部を卒業後、ブエノスアイレス市内のリバダアビア病院やイタリア病院で勤務。2000年と2015年に奈良県立医科大学に留学。現在はエル・フルセ病院の放射線画像診断科長。

● 高齢者福祉事情

INDEC の推計によると、2020 年時点のブエノスアイレス市の平均寿命は 79.5 歳（男性：76.4 歳、女性：82.6 歳）。また、2021 年時点で 65 歳以上が占める割合は 16.6%、0 歳から 14 歳が占める割合は 19.9%と少子高齢化が進んでおり、2050 年には国民の 5 人に 1 人が 65 歳以上になると言われている。

！ アルゼンチンの年金制度

2008 年まで民間制度と公的制度が併存していたものの、同年以降は国家社会保障機構（ANSES）が管理するシステムに統一された。同機構によると、2022 年時点での年金受給者（対象者は男性：65 歳以上、女性：60 歳以上）は 738 万 6,150 人に達している。なお、アルゼンチンの最低年金支給額は 7 万 3,665 ペソ（約 368 ドル）である。

！ 高齢者施設・介護サービス

アルゼンチンでは、伝統的に家族や親戚が高齢者のケアを行う傾向が強く、高齢者施設や介護サービスを利用する習慣が定着していない。しかし、2012 年の「高齢者の生活の質に関する全国調査（ENCaViAM）」によると、65 歳以上の高齢者が住む世帯のうち、20.7%が「一人暮らし」、31%が「同世代（配偶者やパートナー）と同居」、48.3%が「多世代（子供や孫など）と同居」と核家族化が進んでいることが分かる。さらに、平均寿命が延びたこと、女性の社会進出で共働きが増えたことなどにより、近年は同分野での需要が高まっている。未開拓であると同時に、今後拡大する可能性を秘めた市場である。

ブエノスアイレス市政府によると、市内で登録されている高齢者施設は 558 軒で、入居者は約 1 万 6,000 人（ともに 2018 年時点）だが、その大半がほぼ満員の状況にあるという。アルゼンチン健康保険機構（PAMI）が運営する無料の高齢者施設もあるが、入居者は低所得層に限定されている。民間の場合、立地、サービス、ケア、活動の内容によって差があるものの、料金は月額 12 万ペソから 30 万ペソ。一方、快適な高級マンションに住みながらケアも同時に受けられる「シニアリゾート」という富裕層向け施設も存在する。いかに質の高いケアを受けられるかは、老後の経済力次第ということになる。





● 富裕層向けサービス

美容整形

ポルテーニョの美容整形に対する関心は非常に高い。国際美容外科学会 (ISAPS) の調査によると、2018年にアルゼンチン国内で行われた美容整形手術（外科的手法および非外科的手法）は60万8,960件（世界第7位）に達した。手術を受ける人の87.4%が女性であることが特徴として挙げられる。女性は、シリコンによる豊胸、眼瞼形成術、脂肪吸引、鼻形成術、腹壁形成術が多い。男性はボツリヌス・トキシン注射や

クールス・カルプティングといった非侵襲的美容治療を好み、外科的手法は乳房縮小術が最も多い。近年の傾向として、外科的手法よりボツリヌス・トキシン注射、ヒアルロン酸の注入、永久脱毛、クールス・カルプティングなどの非外科的手法を好む人が増加している。また、アルゼンチンは美容整形の医療レベルが高く、費用も他国に比べて安いいため、医療ツーリズムでアルゼンチンを訪れる外国人も多い。

手術内容	ペソ	ドル
豊胸	610,000	3,050
乳房固定	370,000	1,850
脂肪吸引	395,000	1,975
腹部整形	475,000	2,375
顔のしわ取り	490,000	2,450
鼻成形	260,000	1,300

出所：関連施設へのヒアリング調査
(2023年2月時点)

家事代行サービス

アルゼンチンでは、富裕層のみならず、中流家庭でも家政婦を雇っている場合が多い。家事代行サービス従業員組合 (UPACP) によると、2022年下半期の時点で、従業者は全国で約140万人（うちブエノスアイレス市が7万人）にのぼり、政府は法整備により労働・雇用・社会保障省への登録と社会保障の拡充を促進しているものの、その58%（ブエノスアイレス市は70%）が依然インフォーマルな形で働いている。

料金はサービスの内容や形態によって異なるが、2023年3月時点の各カテゴリーの最低賃金は右の表のとおり。なお、月給は労働時間が1日8時間以下。

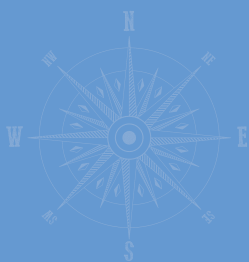
カテゴリー	業務内容	通い		住み込み	
		月給	時給	月給	時給
監督者	複数の部下が行う業務のコーディネーション	92,099	738	102,588	808
特殊業務	調理師もしくは資格を要するその他の業務	85,565	698.5	95,248.5	766
ハウスキーパー	労働契約により居住する物件の管理業務	-	-	83,482.5	659.5
ケア	子供、高齢者、病人、障害者等のケア	83,482.5	659.5	93,032.5	738
一般業務	掃除、洗濯、アイロンがけ、料理など	75,075	611.5	83,482.5	659.5

出所：アルゼンチン家事労働委員会、単位：ペソ

ペットビジネスの拡大

ポルテーニョスは犬好き、猫好きだ。2018年の統計によれば、ブエノスアイレスの全世帯の約60%がペットを飼っており、そのうち71%が犬、29%が猫となっている。全国では約80%の世帯がペットを飼っており、中南米諸国では最も高いとされる。全国のペット用品・ペットフードに関連する市場規模は約8億ドル。市内ではパンデミック中にペットの飼い始めた市民が増え、特に猫が増えたとされる。今や愛犬家、愛猫家は、ペットの体重や年齢、健康を考えてペットフードを購入するだけでなく、ペットケア、医療サービス、ペット専用の国内移動サービス、ペットフレンドリーなカフェやレストランを始め始めている。多忙なポルテーニョスは、犬の散歩サービスも良く利用している。1時間あたりの散歩サービスは、5,000から1万5,000ペソと割高だ。ペットに関連したビジネスは今後も拡大していきそうだ。





JETRO

ブエノスアイレススタイル

2023年3月発行

発行日：2023年3月

制作：ジェットロ・ブエノスアイレス事務所
Edificio Comega, Av. Corrientes 222 P.9
C1043AAP, Buenos Aires, ARGENTINA
TEL. 54-11-5235-0977
E-mail: infobuenosaires@jetro.go.jp

編集：(株)モスト・ランゲージ・サービス

デザイン：Mónica Okuma

撮影：Jason Kung

(一部ジェットロ撮影)

【著作権について】本レポートの著作権はジェットロに帰属します。本文の内容の無断での転載、掲示板への掲載等はお断りいたします。

【免責について】ジェットロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェットロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

Copyright©2023 JETRO. All rights reserved.

